

# **令和6年度の災害を中心とした事例集 (災害対応事例集)**

**令和7年5月**

**消 防 庁**

# 目 次

## 石川県能登地方を震源とする地震

石川県能登地方を震源とする地震の概要 1

## 令和6年能登半島地震

令和6年能登半島地震の概要 2

## 令和6年9月 20 日からの大雨

令和6年9月 20 日からの大雨の概要 4

## 令和6年7月 25 日からの大雨

令和6年7月 25 日からの大雨の概要 6

## 被災自治体

石川県輪島市(令和6年能登半島地震・令和6年9月 20 日からの大雨) 7

石川県珠洲市

(石川県能登地方を震源とする地震・令和6年能登半島地震・令和6年9月 20 日からの大雨) 19

石川県能登町(令和6年能登半島地震・令和6年9月 20 日からの大雨) 39

石川県七尾市(令和6年能登半島地震) 52

石川県穴水町(令和6年能登半島地震) 58

石川県志賀町(令和6年能登半島地震) 65

石川県金沢市(令和6年能登半島地震) 72

山形県酒田市(令和6年7月 25 日からの大雨) 76

山形県戸沢村(令和6年7月 25 日からの大雨) 82

※ 各首長からのメッセージにおける被害状況の数値は、取材を行った時点のものです。

# 石川県能登地方を震源とする地震の概要

## 1 地震の概要

令和5年5月5日14時42分、能登半島沖を震源とするマグニチュード6.5の地震が発生し、石川県珠洲市で震度6強を観測した。

また、同日21時58分、同じく能登半島沖を震源とするマグニチュード5.9の地震が発生し、同市で震度5強を観測した。



各地域の震度（気象庁ホームページから）

## 2 被害の概要

この地震により、石川県及び富山県において、死者1人、負傷者52人の人的被害が発生した。

また、全壊40棟、半壊313棟、一部破損3,073棟、計3,426棟の住家被害が発生した（令和6年3月6日現在）。

注）消防庁ホームページ：「能登半島沖を震源とする地震による被害及び消防機関等の対応状況（第24報）」  
から

# 令和6年能登半島地震の概要

## 1 地震の概要

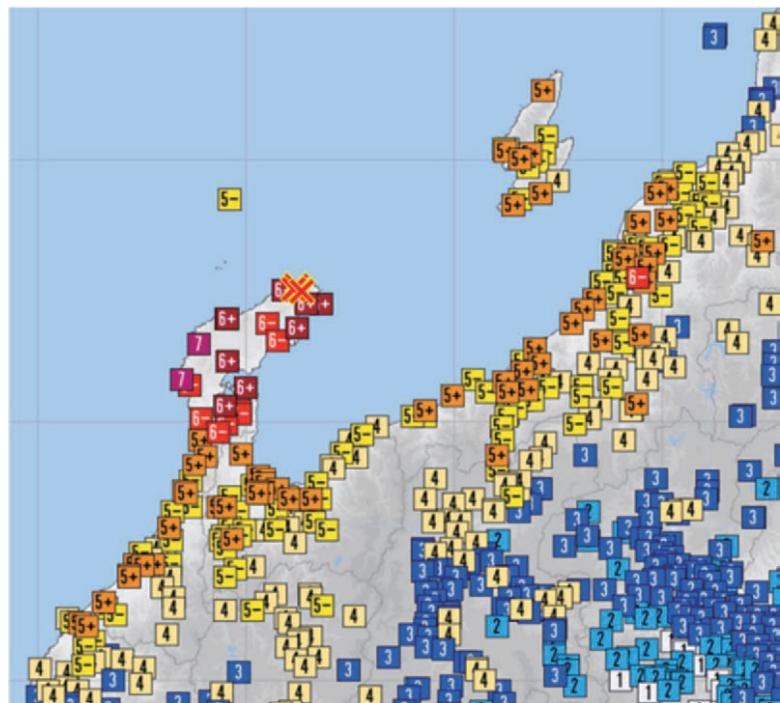
令和6年1月1日16時10分、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震（以下、「本地震」という。）が発生し、石川県輪島市や志賀町で震度7を観測したほか、北陸地方を中心に北海道から九州地方にかけて震度6強から震度1を観測するなど、非常に広範囲で揺れを観測した。その後、地震活動が活発な状態で推移し、10月31日までに最大震度5弱以上の地震が本地震を含めて19回発生した。

令和6年能登半島地震（マグニチュード7.6）による市町村別震度一覧

震度	都道府県	市町村
7	石川県	輪島市 志賀町
6強	石川県	七尾市 珠洲市 穴水町 能登町
6弱	石川県	中能登町
	新潟県	長岡市
5強	石川県	金沢市 小松市 加賀市 羽咋市 かほく市 能美市 宝達志水町
	新潟県	新潟市中央区 新潟市南区 新潟市西区 新潟市西蒲区 三条市 柏崎市 見附市 蒲原郡糸魚川町 妙高市 上越市 佐渡市 南魚沼市 阿賀町 刈羽村
	富山県	富山市 高岡市 氷見市 小矢部市 南砺市 射水市 舟橋村
	福井県	あわら市

（令和6年版 消防白書より）

令和6年能登半島地震震度分布図



（気象庁ホームページを基に作成）

## 2 被害の概要

### (1) 人的被害

本地震により多数の家屋倒壊が発生し、死者・行方不明者 450 人の人的被害をもたらした。

死者は石川県に集中し、輪島市 167 人（その他行方不明者 3 人）、珠洲市 137 人等となったほか、全国で負傷者 1,344 人が発生するなど大きな被害となった（令和 6 年 11 月 21 日現在）

### (2) 物的被害

物的被害は、石川県、富山県、新潟県、福井県、長野県及び岐阜県の 6 県で発生し、全壊が 6,436 棟（石川県 6,068 棟、富山県 259 棟、新潟県 109 棟）、半壊・一部破損が 13 万 2,423 棟（石川県 8 万 6,424 棟、新潟県 2 万 3,158 棟、富山県 2 万 1,992 棟、福井県 827 棟、長野県 20 棟（一部破損のみ）、岐阜県 2 棟（一部破損のみ））、床上・床下浸水が 25 棟（新潟県 14 棟、石川県 11 棟）となり、被災地全体で計 13 万棟を超える住家被害が発生した（令和 6 年 11 月 21 日現在）。また、石川県における非住家被害は約 3 万 5 千棟となっている。

さらに、石川県、新潟県及び富山県の 3 県で 17 件の火災が発生し、特に石川県輪島市河井町では、区域内の建物が約 240 棟焼損し、焼失面積が約 4 万 9 千平方メートルに及ぶ大規模火災が発生した。

また、電気、ガス、上下水道等のライフラインへの被害のほか、道路、鉄道等の交通インフラにも甚大な被害が生じ、住民生活や中小企業、農林漁業や観光業等の経済活動にも大きな支障が生じた。

被害状況（人的・住家被害）（令和 6 年 11 月 21 日現在）

都道府県	人的被害						住家被害						非住家被害			
	死者	うち 災害関連死者	行方 不明者	負傷者			合計	全壊	半壊	床上 浸水	床下 浸水	一部 破損	合計	公共 建物	その他	合計
				重傷	軽傷	小計										
人	人	人	人	人	人	人	人	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟
新潟県	4	4		11	44	55	59	109	4,011		14	19,147	23,281		68	68
富山県	2	2		14	42	56	58	259	803			21,189	22,251		1,181	1,181
石川県	441	214	3	342	876	1,218	1,662	6,068	18,249	6	5	68,175	92,503	330	34,798	35,128
福井県					6	6	6		12			815	827		10	10
長野県												20	20			
岐阜県					1	1	1					2	2		1	1
愛知県					1	1	1									
大阪府					5	5	5									
兵庫県					2	2	2									
合計	447	220	3	367	977	1,344	1,794	6,436	23,075	6	19	109,348	138,884	330	36,058	36,388



左：のと里山海道（横田 IC～徳田大津 JCT）右：輪島市内（ともに石川県ホームページから）

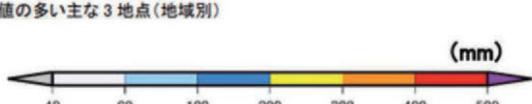
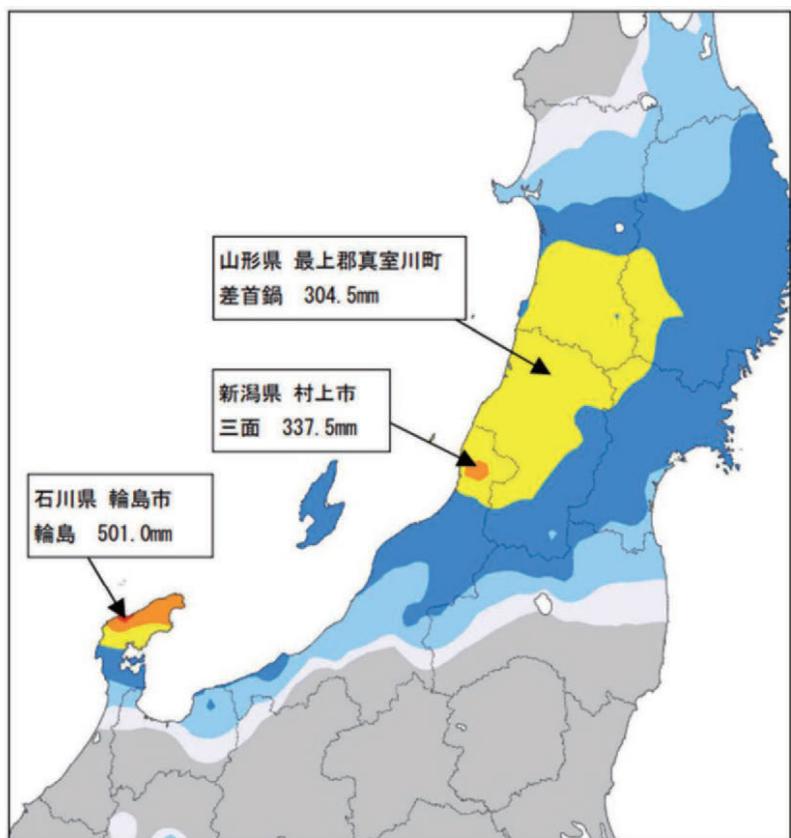
# 令和6年9月20日からの大雨の概要

## 1 気象の概要

令和6年9月20日頃から前線が日本海から東北地方付近に停滞し、21日は前線上の低気圧が日本海を東に進み、22日には台風第14号から変わった低気圧が日本海から三陸沖へ進んだ。低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で大気の状態が非常に不安定となり、東北地方から西日本にかけての広い範囲で雷を伴った大雨となった。

特に、石川県では21日午前に線状降水帯が発生し、大雨災害の危険度が急激に高まったことから、気象庁は同日10時50分に石川県輪島市、珠洲市及び能登町に大雨特別警報を発表した。石川県の多いところでは20日から22日までの総降水量が500ミリを超える、平年の9月の月降水量の2倍を上回るなど、北陸地方や東北地方の日本海側では記録的な大雨となった。

降水量の期間合計値分布図（9月20日～9月22日）



気象庁 災害をもたらした気象事例（令和6年10月29日）より

## 2 被害の概要

この記録的な大雨により、元日に大きな被害を受けた石川県能登地方を中心に、河川氾濫、浸水、がけ崩れ等が発生した。特に、輪島市、珠洲市及び能登町では、複数の土砂災害が発生するなど、死者 16 人、負傷者 47 人の人的被害が発生した。

また、住家被害については、石川県、山形県、新潟県、香川県及び長崎県で計 2,301 棟となっている（令和 6 年 11 月 21 日現在）。

被害状況（人的・住家被害）（令和 6 年 11 月 21 日現在）

都道府県	人的被害						住家被害						
	死者	うち 災害関 連死者	行方 不明者	負傷者			合計	全壊	半壊	床上 浸水	床下 浸水	一部 破損	合計
				重傷	軽傷	小計							
山形県											26		26
新潟県											3		3
石川県	15			2	45	47	62	108	565	270	1,166	59	2,168
香川県											1		1
長崎県											15	88	103
熊本県	1						1						
合計	16			2	45	47	63	108	565	285	1,284	59	2,301



珠洲市上戸町（石川県ホームページから）

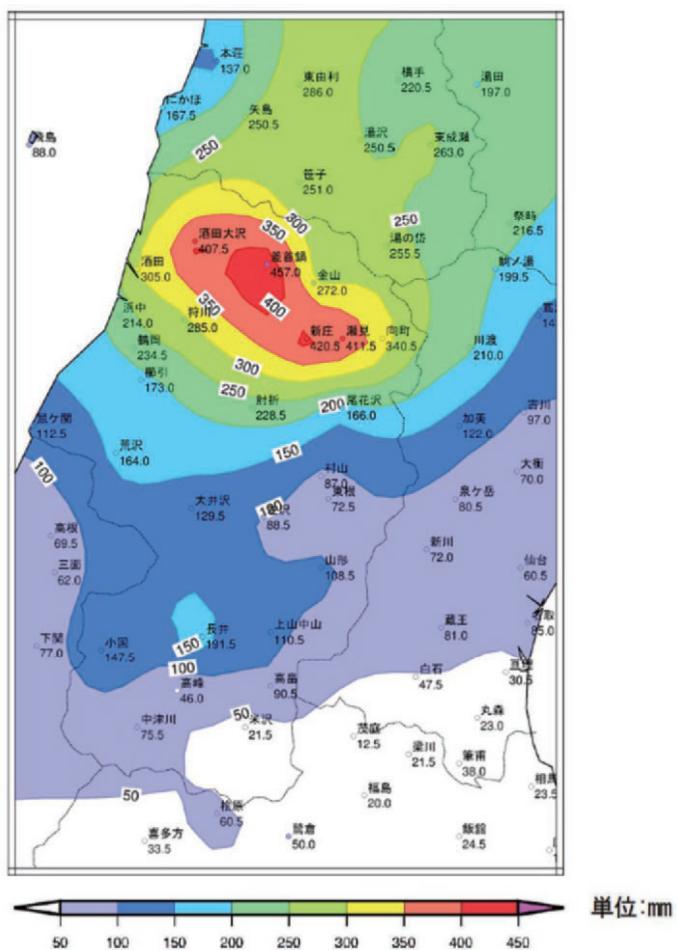
# 令和6年7月25日からの大雨の概要

1 気象の概要

令和6年7月23日頃から北日本に停滞した梅雨前線の影響で、東北地方の日本海側を中心に北日本から西日本にかけて大雨となり、特に山形県では25日の昼過ぎと夜に線状降水帯が発生した。気象庁は同日13時05分に山形県を対象に大雨特別警報を発表し、20時10分に大雨警報に切り替えたのち、23時40分に再び山形県を対象に大雨特別警報を発表した。

また、東北地方を中心に、24日から26日にかけての3日間の降水量が400ミリを超えた地点や平年の7月の月降水量を超えた地点があり、記録的な大雨となった。

総降水量分布図（24日00時～27日24時）



山形地方気象台（山形県災害時気象資料）より

## 2 被害の概要

この記録的な大雨により、東北地方の日本海側を中心に広い範囲で河川氾濫、浸水、がけ崩れ等の被害が発生した。特に、山形県新庄市において、大雨の影響で警察官2人が浸水に巻き込まれるなど、山形県で死者3人・負傷者4人、秋田県で死者2人・負傷者1人の人的被害が発生した。

また、住家被害については、山形県で 1,763 棟、秋田県で 317 棟など、計 2,098 棟となっている（令和 6 年 11 月 21 日現在）。

1 輪島市長からのメッセージ

輪島市長 坂口 茂

〈令和6年能登半島地震〉

●震度7の想定を

2007年（平成19年）に能登半島地震が発生した際は市の都市整備課長をしていた。震度6強で死者1人、前年に合併した旧門前町が大きな被害を受けた。建物も相当な被害があり、罹災証明のための被災調査も担当した。ただ、孤立した集落もライフラインの途絶もなく、電話もつながった。被災した地域が限定的だったので、多くの職員を門前にスライドすることができた。3月の発生だったので、定年を迎える職員に「もう少し働いて」とお願いし、新入職員も投入した。あのころは人的にも豊富だった。再建への作業は早かったが、それでも「もう二度と経験したくない」と思ったものだ。

これに対し、2024年の地震はケタが違った。被害は市内全域に及び、「震度6強と、今回の震度7はこんなに違うのか」と実感した。死者も多く、道が寸断され、徒歩かヘリコプターでしか移動できない。インフラが被災し、2007年には使えた避難所も被災し思ったように使用できない。2007年の地震の後、もうこのような災害はないだろうけど、いつ起こってもいいように耐えられる備えをしなければいけないと考えてきた。備蓄する物資を充実し、住宅や上下水道の耐震化も進めた。これらが今回、役立った面はあると思う。ただ、その備えは震度6強、前回並みなら対処できるレベルにとどまっていた。それが反省材料だ。前回を超えるような規模の地震が起きるとは思ってもみなかった。ある程度の地震なら準備をしているし、何とかなるという思いもあった。どの自治体も、最大震度の7を想定してほしい。このことを強調したい。

●耐震化、インフラの維持管理を

かつて、市の単費で簡易的な耐震補助を進めた。日ごろいる部屋、寝室を強化する狙いで、費用負担が低いので制度の利用はあった。その後、最大150万円を補助する通常の耐震化に切り替えたが、あまり進まなかった。高齢化が原因と思われる。過去の施策が今回どう効果があったかは分からぬが、家屋の耐震化は重要だ。全国的に手厚い補助をしてでもやるべきだろう。

老朽化が進むインフラの改修、設備の耐震化も進めてほしい。水道管の耐震化を進めていたことで復旧は早かった。首長は派手で新しい事業に飛びつきくなるものだが、古い設備の維持管理に着目した方がいい。後始末であり地味ではあるが、地方には古い設備がいっぱいある。きちんと目配りすることが災害に強い地域につながる。

●首長不在想定した体制を

地震が発生した1月1日は公務がなく、発生時は市東部にある町野の自宅で年賀状の返信を書いていた。16時6分の揺れで、「市役所に行かないと」と思い、防災服に着替え、カバンを用意していたら16時10分、強烈な揺れが来た。すぐに外に飛び出した。周りの家屋はほぼ全部つぶれていた。道路も倒壊した家屋でふさがれ、亀裂が入り、段差もひどい。見慣れた光景が一変していた。「車では登庁できない」と考え、町野の支所に徒步で

向かった。途中、家屋の下敷きになっている人、助けている人たちに「今、消防が来ますから」と声をかけ、支所へ急いだ。消防分署の職員と話し、「たくさんの家で人が下敷きになっている」「救助の優先順位をつけてくれ」と告げた。支所に着き、職員に「命を救うことが優先だ」「すぐ暗くなるので、声がするところから、手ができる範囲で救助しよう」と伝えた。

自衛隊のヘリに乗って中心部に入り、登庁できたのは1月3日の午前9時半ごろだった。町野にいる時から「とんでもない災害になっている」との認識はあった。町野がこんな状況だから、中心部やほかの地域も被害が大きく、孤立している地域が多いことは想像できた。2007年とは比較にならない、すごい揺れだった。自分たちだけでは対応できない災害であることが明白で、自衛隊や関係機関に助けてもらわないとどうしようもないと考えた。町野支所でアナログの電話回線が1本だけ奇跡的に生きていた。市役所に電話が通じ、副市長に自衛隊の派遣要請のことを伝えたら既に連絡してくれていたのではっとした。

私も副市長も18年前の地震を経験している。幹部が一人の時でもやることは分かっている。私と副市長の両方とも市外には出ないようにしていたし、副市長は庁舎の近くに住んでいるので、地震では徒歩で登庁した。総務部長も中心部に住まいがある。首長が不在でも、ほかの幹部でカバーできる配置、体制は考えておくべきだろう。

### ●人命が第一

町野小学校のグラウンドに3日午前9時ごろ、最初の物資搬入のための自衛隊のヘリが降り立ち、積んできた物資をおろした帰りに私が乗り、中心部に入ることができた。2日夕方の予定だったが、天候不良で1日延びた。上空から見ると「これは現実か」という映画のような光景が広がっていた。あちこちの山肌が抜け、家屋はほとんど全壊したようにも見えた。「大変なことになった」とあらためて感じた。

登庁してすぐ、副市長や総務部長と情報共有を始めた。人命救助優先が第一で、1日の発生から72時間が迫っており、「早く、行方が分からない人を捜さないといけない」と確認した。物資の確保、提供も優先すべき課題だった。町野では避難者が自宅から食材を持ち寄ってしのいでおり、トイレが使えないことも伝えた。給水体制を取ることも共有した。

3日のうちに記者会見に臨んだ。この時点では、建物の被害棟数も孤立集落の数も全然分からず状況だったが、分かっている被害状況だけでもお伝えすることにした。「市長は無事なのか」という声もあったので、顔を見せる意味もあった。

災害対策本部は震度5強以上なら自動的に設置すると決めている。1日は参考した職員で会議を始め、3日の石川県との会議には私がオンラインで参加した。関係機関が集まって開催できたのが6日。このころに応援態勢を整えていただいた実感があった。私はこうした場で「人命が第一」と強調した。「せっかく助かった命を守ろう」と関連死対策のことや、孤立集落、道路啓開、トイレ、断水、物資を住民のところまでどう届けるのかといったことも話した。避難所の状況が心配だった。

### ●命守るための1.5次避難、2次避難

孤立した町野にいたとき、支所の公用車で避難所を職員と回った。「物資は小学校のグラウンドにおろす。着いたら連絡するから取りに来てください」と伝えた。特にトイレの状況は劣悪だった。中心部の避難所もひどい環境で、新型コロナ、ノロウイルス、インフルエンザが次第に流行した。下痢や嘔吐に苦しむ避難者が続出した。救急車で病院に運んでも、命の危険がある患者で病院は既にあふれ返っており、DMA-T（災害派遣医療チーム）も苦労していた。だからと言って避難所に置いておいたら、感染がどんどん広がってしまう。そこで「1.5次避難」「2次避難」という形を輪島市が最初に言い出した。

これには「人口の流出につながる」「お年寄りはできるだけ元の地域に近いところにいた方がいい」との声もあった。しかし、ひどい状態を放置すれば助かる命も助からなくなる。段ボールベッドなどが整備されればいいが、そんなスペースは確保できなかった。避難所で病気が蔓延し、病院もパンクしている状況で避難者の健康を第一に考えた。避難所に足を運び、方針を伝えると「輪島から出て行けというのか」とも言われた。「命を守るために、いったん出よう」と説得した。加賀市長が電話をくださって「受け入れる用意がある」と言ってくれたのはありがたかった。結果的にはよかったです。そうしなければ市民の皆さんのが病気になる状況を脱することはできなかつただろう。町野や中心部の避難所を実際に見てから判断できた。ぎゅうぎゅう詰めの、あの避難所で寝るなんてできない。ちゃんと宿泊施設で食事をしっかり取り、風呂にも入ってしっかり体を温めてほしいと考えた。

### ●支援に感謝、自治体互助システムの拡充を

全国からいただいた支援には感謝しかない。自衛隊や警察、消防の総合力は「日本人でよかった」と思えた。国土交通省の T E C - F O R C E (緊急災害対策派遣隊) の道路啓開は心強かった。総務省の応急対策職員派遣制度による総括支援チームや、対口支援チームで入っていただいた三重県をはじめとするすべての自治体に感謝したい。こうした仕組みがあって本当によかった。消防庁など国のリエゾンもありがとうございましたし、水道の復旧では東京都水道局などが親身になって支えてくださいました。対口支援の応援が入ってきたところから、輪島市の職員に対し1週間に1日は休むよう伝えた。休まない人には理由を聞いた。地元や避難所で職員が休んでいると「仕事しろ」とかあれこれ言われるので、金沢など市外でリフレッシュすることも勧めた。業務が辛くて退職した職員もいる。長丁場で休息や気分転換は必要だ。

こうした自治体支援のスキームは、より一層充実してほしい。自治体は行財政改革でスリム化しており、普段でも余力がない。輪島市の職員数は今、2007年の地震当時の3分の2しかいない。今回のように長期的な対応が必要になると厳しい。中長期で87人の支援を受けて助かっている。災害が減ることはないから、国を挙げての互助システムが必要だ。

民間団体やボランティアの支援にもすごく助けられた。一部でトラブルはあったものの、素晴らしい活動だった。民間・ボランティアの支援も復旧復興を支えてくれている。輪島市の災害ボランティアセンターだけでは受け入れるのは困難だったし、民間の団体は災害経験に長けている。有益なアドバイスを何度もいただいた。

政府の非常災害現地対策本部が金沢の石川県庁に置かれたのはよかったと思う。輪島市を含めたあれだけ広域の災害では、被災地から離れたところでコントロールするしかない。初期のころは1日に2回、県の会議に私もオンラインで出席し、市の情報を上げていた。金沢と距離はあるが、意思疎通はできたのであれでよかったと考える。例えば輪島にあっても、国などの職員が泊まる場所がない。多くの車両を止める場所もない。避難所で食料や物資が行き渡っていないのに応援者の分まで手当てできない。大勢が集まる執務スペースもない。大津波警報が出た初日、鉄筋コンクリートの輪島市役所には多くの避難者が身を寄せ、全くスペースがなかった。避難者には事情を説明し輪島高校に移ってもらい、退去が完了したのは5日午後4時だった。

### ●広場・緑地・空間が必要

復旧や復興では、広場や緑地といった空間が必要だと痛感している。応援の関係機関や自治体が拠点にできるスペースや駐車場の確保に苦労した。輪島市は地形の制約で確保が厳しく、テントを張って寝泊まりできる空間がある自治体がうらやましかった。宿泊施設が軒並み被災して受け入れができない中で、テントも十分に置けない状況だった。豪雨で仮設住宅が被災したが、建設できる用地が足りない。かなりの田んぼをつぶして仮設を建てた。普段からできるだけ広場や緑地をつくっておくべきだろう。

### ●復旧復興は遅いのか

マスコミからよく「復旧や復興が遅い」と言われる。被災者には「何でもっと早くできないのか」という思いもあるだろう。当事者としてはもちろん、「1日も早く進めたい」との思いでやっている。そのために全国から応援をいっぱいいただいた。ただ、震度7の直下型地震の被害はこれまでの災害と異なる。半島という制約も大きい。事業の受け手がいない問題も大きい。地元の工務店や建設業者は仕事を抱え、いっぱいいっぱいだ。少しでもスピードを上げるには、外からトップクラスの業者を呼んでくるしかない。倒壊した建物の公費解体もこのペースが精いっぱい。当初は道路もひどかったし、業者が寝泊まりできる場所もなかった。時間がかかることを分かってほしい。これ以上早くできたのかと言われてもそれは難しいということになる。

〈令和6年9月20日からの大雨〉

### ●「心折れた」被災者に希望を

豪雨があった9月21日時点の状況を振り返ると、1月1日の震災から9か月が経過して応急仮設住宅がおおむね建ち、避難所解消のめどが立ってきた時期だった。少しずつではあるが飲食店は営業を再開し、被災家屋の公費解体も加速し始め、日常に向けて歩み出したところだった。インフラや道路の復旧はまだまだ大変だが、作業員の宿舎も確保し、前に向かって進んでいた、そんなタイミングだった。

21日、豪雨被害の情報が次々に入ってきて「これは大変な被害になる」と思った。震災から立ち直ろうとやってきて、ようやく明るさが戻ってきたのに、この水害で市民の皆さんのが復旧復興をあきらめてしまうのではないかと心配した。地震と水害、もう輪島には住めないのではないかと感じる人が出てしまうと想像できた。何とかして復興するぞという気持ちだったのに、2度の被災で「心が折れた」という声をよく聞いた。

被災の時期がまたよくなかった。震災でいったん底に落ち、ようやく前向きになりかけたときに泥まみれになった。店舗も住まいもリフォームして再開や立て直しを進め、そこまでこぎ着けるのにずいぶんと皆さん苦労してきた。その努力が無になってしまるのはきついものがある。泥だらけの屋内は何もする気がしなくなる。人によっては「地震よりいやらしい災害だ」という声もある。

市長としては、前向きなことしか言わないように心がけた。皆さんのが明るい希望を少しでも持てるよう、できるだけ言葉で伝えてきたつもりだ。プラスの発想で、元気になれるような話題を出していきたい。この状況で、ボランティアの存在は本当に心強い。受け入れをもっと充実させたい。水害の片付け、清掃は人海戦術で一気に作業が進む。建物の持ち主さんとボランティアの交流で、「心が折れた」という人が「やっぱり頑張ろう」という気持ちになる。前を向くきっかけになる存在だと感じている。

厳しい複合災害に対し、国や県には激甚災害の適用などさまざまなお願いをした。住宅の被害認定をする調査で地震による損壊に水害による損害を加算して、柔道の「合わせ技」のように判定する方法は認められなかつたが、震災と水害を一体として認定することはできた。

### ●秋雨前線、山腹の土砂が複合災害に

震災により、多くの山腹が崩壊した。その影響をずっと心配していた。樹木や土砂が大量に出て、河道閉塞による天然ダム（土砂ダム）が何か所もできた。技術屋なので、大雨が降ったらまた大変な災害になることは分かっていた。大規模な土砂崩れを起こした市ノ瀬地区では、国土交通省が直轄で仮排水路をつくって対応していたが、大規模な土砂災害すべてに手が回らない。まだ対応が完了していなかった。山あいに残る土砂が、雨が降つたらどうなるのか、懸念材料としてずっと心の中であった。梅雨はそれほどの雨量でもなく、何とか乗り越えたが、9月下旬くらいからの秋雨前線もまた心配だった。これまでの経験で、梅雨前線よりも秋雨前線の方が注意しないといけないという気持ちもあった。通常程度の大雨なら持ちこたえたかもしれないが、観測史上最も降っ

た雨量には耐えられなかった。輪島は急峻な地形の山が多い。1000 年に 1 度クラスの雨で小さな川を大量の流木と土砂が流れ下り、土石流が生じたり、河道が閉塞したりして、恐れていた複合災害が起きてしまった。

### ●甚大だった流木の影響

犠牲者が出た久手川町の塚田川では、大量の流木が橋梁に集積して川の流れが変わり、住宅に向かって家屋ごと流されてしまい、人的被害が生じた。ほかの川でも、流木や土砂が大量に流れてこなければ市街地に氾濫する被害は抑えられたかもしれない。

1月の地震では橋梁は 1 つも落ちていないのに、豪雨では 16 もの橋が落橋した。多くの道が通行止めになったのも、流木の被害によるところが大きい。今後、流木の対策を真剣に考えないといけない。ハザードマップの浸水想定に、流木の集積による影響を加味して見直すことも考える必要があるだろう。

町野町の若桑や南時国などで見た、道路を土砂と流木が埋め尽くしている光景はショッキングだった。これを個人で撤去するのは無理だ。関係機関に加えて、地震の公費解体に当たっていた業者に頼んで解体を中断してもらい、豪雨災害の仕事に加わってもらった。これら業者の重機が流木をつかみ、撤去するのに役だった。臨時の措置だったが、助けられた。

かつて奥能登は林業が盛んだったが、いまはなりわいとして成り立っている状況ではない。木や森の保全ができるいなかつたことも今回の被害の背景としてあるのかもしれない。地震による山への影響は詳しくは分からぬが、ほどよく間伐された山林だったらこれほどの山腹崩壊はなかったかもしれない。山の保全はしっかり考えておくべき課題だ。輪島市は山林が全体の 76% を占める。間伐や木を適正な数まで減らしていくことは必要だ。人を雇用して回していくような林業のあり方を考えたい。

### ●市民の動画が参考に

とんでもない豪雨で、しばらくの間、市の職員が現場に出て状況を把握するのは難しかった。市民が撮影した動画や写真が、私や職員に送られ、SNS でアップされたのは貴重な情報としてありがたかった。地震のときと違い、通信環境は大丈夫だったのですぐに見ることができた。家が流される映像、町野小学校に泥が流れ込む映像、（中心部の）河井中央で水かさが上がっている映像、ポイントごとの状況がリアルタイムで把握できた。災害があると市役所には通報や情報提供の電話がどんどんかかるが、動画や写真付きの方がありがたい。ただ電話で「大変だ」と言わても、個人の主觀で何が大変なのかも違う。職員が正確に聞き取るのも結構難しい。動画は現場の状況を理解する助けになる。

### ●仮設の立地、やむを得ず

地震で被災した人向けの仮設住宅が、今回の豪雨で浸水の被害に遭った。逃げ遅れた人を警察官が背中でおんぶして救出してもらうなど、関係機関には大変お世話になった。輪島市は仮設住宅の敷地に適した平らな用地が少ないので、田んぼなどをつぶして建てた場所も多い。今回浸水した宅田第二団地などは便利な場所にあって人気があったが、一方で地形として低い場所にあり、市民の間でもこのことは知られていた。用地不足の点からそういう場所に建てたのは、やむを得ない事情があった。避難所解消に向けて一定のスピードを求められており、山安いに建てたら土砂災害の心配があるし、不便だ。低い場所で仮設の敷地だけかさ上げするのも、既存の市街地・住宅との関係からためらわれた。

建設時点から雨のことは懸念材料としてあった。この点について入居時に鍵を渡す際、パンフレットを渡して「何かあったら逃げてください」とも説明してきた。「そんなことは聞いていない」と言う住民もいたが、切実な問題として受け止められてはいなかったのだろう。市としても、あまり脅かすのもためらわれた部分もあつ

た。ひどい地震に加え、めったにない豪雨が重なり、不安が本当のことになってしまった。入居して間もない段階で床上浸水、本当にきついなあと感じた。ようやく安心して住める場所に入ったのに言葉もなかった。ただ、仮設の近くを流れる河原田川の水位は堤防を越えていない。排水の処理の問題は今後もついてくる。市内には2階建ての仮設もあるが、積極的にはこのタイプの仮設は建てていない。上下階の騒音がトラブルになることが懸念されたし、2階建てはどうしても工期が長くなる。当時の気持ちとしては避難所を出て一刻も早く仮設に移つていただきたかった。

### ●温暖化対応の設計基準を

地球温暖化で日本海の海水温が上がったのは事実であり、マグロが増えたなど輪島で取れる魚種も変わってきた。雨も亜熱帯のような降り方になってきて今回のような豪雨が頻度高く発生するようになってきた。公共の施設の設計基準を改め、今の時代の豪雨に合った基準に改めてほしい。インフラの強靭化は国の支援がないと難しい。これだけ豪雨が身近になったいま、防災体制の見直しが必要だ。

## 2 災害の概要

### 〈令和6年能登半島地震〉

令和6年1月1日16時10分に発生した能登半島地震で輪島市は震度7を記録した。大津波警報が発令され、舳倉島漁港で推定された津波の高さは2.9メートル（痕跡高）。多数の住家が倒壊などの被害を受け、ライフラインは全域で断水、広範囲で停電になった。道路が各地で寸断、通行止めとなり、市街地間や集落間の移動も土砂災害や道路崩落でできなくなった。孤立した集落が相次いだ。能登空港は閉鎖、港湾施設が海岸の隆起により使用不能になったのも今回の特徴だった。観光名所として知られた輪島朝市周辺で大規模な火災になり、約240棟が焼損、焼失した。焼失面積は約4万9000平方メートルに及んだ。さまざまな形の被災による複合災害となった。

### 〈令和6年9月20日からの大雨〉

9月21日の午前、奥能登上空に線状降水帯が発生し、大雨特別警報が10時50分に発表された。1時間降水量は最大121ミリ、24時間降水量は412ミリを記録し、ともに輪島市での観測史上最大となった。記録的な大雨により、大小の多くの河川が氾濫し、落橋も16か所で確認がされ、各地で大規模な土砂崩れが発生した。塚田川では河口から約1.4キロにあつた複数の家屋が川の氾濫によって流出、人的被害も発生した。橋梁に大量の流木が集積したことで流路がふさがれてそれ、急激に水位が上昇して家屋を直撃したとの専門家の分析もある。

## 3 被害の状況

### 〈令和6年能登半島地震〉

【人的被害】 死亡196人（うち関連死95人）、重傷213人、軽傷303人、行方不明者2人

※令和7年3月11日現在

【住家被害】 全壊2,309棟、半壊3,951棟、一部損壊4,324棟

※令和7年3月11日現在

【孤立集落】 最大15地区2,817人

【停電】 最大13,000戸（経済産業省による）

【断水】 市内全域断水（11,434戸）（1月1日時点）

### 【家屋被害認定調査】

調査数 28,048 件（うち住家 14,816 件）、罹災証明書発行数 24,909 件（うち住家 10,584 件）、

罹災証明書発行率 88.8%（うち住家 71.4%）

※令和 7 年 3 月 11 日現在

【道路】 県道 3 路線、市道 172 路線が通行止め

※令和 7 年 3 月 11 日現在

【避難所】 最大 186 施設（1 月 1 ~ 2 日時点）

【津波被害】 舳倉島漁港でブロック塀倒壊、漁船転覆、漁具散乱、家屋全壊（気象庁調査）



① 倒壊した建物=輪島市中心部



② 炎上中の輪島朝市付近



③ 地盤が隆起した漁港



④ 土砂災害



⑤ 寸断された道路

(写真①～⑤ 輪島市提供)

〈令和6年9月20日からの大雨〉

【人的被害】 死亡 11 人、重傷 1 人、軽傷 34 人

※令和7年3月25日現在

【住家被害】 全壊 68 棟、半壊 579 棟、一部損壊 66 棟、床上浸水 51 棟、床下浸水 427 棟

※令和7年3月25日現在

【孤立集落】 最大 9 地区 99 集落

【停電】 最大 4,700 戸

【断水】 最大 3,086 戸

【道路】 最大国道 1 路線、県道 7 路線、市道 162 路線が通行止め

【避難所】 最大 40 施設 985 人



⑥市役所から見た市街地の浸水状況



⑦塚田川での搜索



⑧浸水した仮設住宅



⑨流木や土砂の被害が甚大だった町野地区

(写真⑥～⑨ 輪島市提供)

#### 4 災害の時系列

〈令和6年能登半島地震〉

##### 1月1日（月）

16:10 最大震度7の地震発生

災害対策本部設置

〈市長〉1日すぐに参集できたのは40人くらい。最終的に1日は職員287人のうち111人で、参集率は39%にとどまった。2日は60%を超え、山を歩いてきた職員もいる。3日目で7割くらい。道路がひどいと出てこられないし、自身や家族が被災した人もいる。

16:22 大津波警報発表

〈市長〉町野において情報が入らない当初は、防災無線も通じないので大津波警報が出ていることを知らなかった。あれだけの揺れがあったから津波があるとは思っていた。市役所と電話で話した際、朝市の火災で大変なことになっているという話が中心で、津波の被害の情報は初期の時点では私の耳にはあまり入っていなかった。

17:00頃 石川県へ自衛隊の災害派遣要請

17:23頃 輪島朝市周辺で大規模火災発生

〈市長〉町野では連絡手段が問題だった。どの会社の携帯も通じない。消防無線も駄目だった。支所の玄関にある公衆電話が当初は生きていて、長い列ができた。帰省していた子どもを能登空港まで送りにいった妻と連絡が取れなくなり、私も公衆電話を使いたかったがそういうわけにはいかない。後で分かったことだが、妻は道路の亀裂で車が動かなくなり自宅に戻るのをあきらめ、空港まで徒歩で向かったそうだ。

ほかに使える電話がないか調べていたら、支所のアナログの1回線が使えることが判明した。電話機を差し込んでみたら通じた。これは市が西日本電信電話株式会社と協定を結び設置した回線で、大規模災害が発生した際に、被災した人たちが無料で使用できるように回線

を設置していたものだった。すぐに副市長に電話し、「人命最優先でやってほしい」「状況を確認してくれ」と急いで伝えた。この回線のおかげで、馳浩県知事とも連絡ができた。この回線は外部とつながる唯一の生命線だった。公開していない電話番号だったのだが、一般から頻繁にかかるようになった。家族や知人の安否を尋ねる内容だった。こちらから関係機関に電話したいので大変困った。何でかけてくるのか、聞いてみたら「この番号にかけて知り合いの安否を聞いたら教えてくれたと、ある人がX（旧ツイッター）で発信し、そのXを見た」のだという。一気にその番号が広まったのだった。

そのころ、市役所本庁の電話は鳴りっぱなしだった。家族や知り合いの安否を確認する内容が多く、警察や消防に問い合わせてもつながらないので市役所にかけていたようだ。マスコミからもたくさんかかってきた。

22:25 岸田文雄首相と電話することができたので「支援をお願いしたい」と伝えた。

#### 1月2日（火）

避難者数が最大、1万3,600人を超える

#### 1月6日（土）

17:10 輪島朝市周辺の大規模火災鎮火

19:00 総括支援チームなども交えた第1回災害対策本部会議

#### 1月11日（木）

1.5次避難、2次避難開始

#### 1月12日（金）

応急仮設住宅入居受付開始、建設型応急仮設着工

#### 1月19日（金）

罹災証明書申請受付開始

#### 1月20日（土）

孤立集落が実質的に解消

#### 1月25日（木）

輪島市社会福祉協議会が市災害ボランティアセンター設置

#### 2月1日（木）

災害ごみの回収を一部地区で開始

#### 2月13日（火）

孤立集落解消。最大で15地区2,817人

#### 2月21日（水）

緊急消防援助隊引揚げ

#### 3月1日（金）

輪島市震災復興対策本部を設置

#### 5月31日（木）

輪島市対口支援終了式

〈令和6年9月20日からの大雨〉

### 9月20日（金）

〈市長〉この日の打ち合わせで気象台から「ひどい雨になる可能性がある」という話はあつたが、「今回も空振りに終わるのではないか」と前日までは思っていた。中程度の危険性という認識だった。線状降水帯が起きるとは思ってもみなかつた。ただ週末を控え、担当の防災対策課は職員が泊まり込んで万一の事態に備えてはいた。「雨の情報が出たらしっかり対応してほしい」と伝えていったん帰宅した。

### 9月21日（土）

6:26 大雨警報（土砂災害）

6:54 金沢地方気象台長から市長にホットライン

〈市長〉まだこの段階で「線状降水帯」という言葉はなかつたと思う。ただ、警報が出たので「いつもの空振りであってくれ」と願いながら登庁することにした。すぐに中心部に住んでいる副市長、総務部長に電話して「雨の情報に十分注意してください。私は今から市役所に向かいます」と伝えた。災害対策本部設置のことも話した。

7:00 土砂災害警戒情報

7:10 災害対策本部設置、第1回会議

7:14 洪水警報

7:22 避難指示（12地区8,867世帯18,180人）、避難所開設

7:40頃 市長登庁

〈市長〉家を出たころはそれほどの雨でもなかつたが、市役所に着いたころから少しづつ雨脚が強くなってきた。

9:07 顕著な大雨に関する気象情報

〈市長〉庁舎から見ても周囲が大変な状況になってきたことが分かつた。庁舎の駐車場が水没したのもなかつたことだし、雨がすごいことになってきた。知り合いから私の携帯にも各地の大変な状況がどんどん入ってきた。市内全域でまずい状況になってきた。

9:09 記録的短時間大雨情報1号

9:17 記録的短時間大雨情報2号

9:24 金沢地方気象台長から市長にホットライン

9:28 記録的短時間大雨情報3号

9:36 記録的短時間大雨情報4号

10:21 石川県に自衛隊災害派遣要請

10:50 大雨特別警報

11:07 金沢地方気象台長から市長にホットライン

14:00 第2回災害対策本部会議

16:08 金沢地方気象台長から市長にホットライン

〈市長〉この日の職員参集率は65.4%だった。地震のときと同様、道路が寸断されてしまい、孤立して登庁できない職員が多かつた。

### 9月22日（日）

8:00 避難所40か所、避難者数985人（最大）

9:00 第3回災害対策本部会議

10:10 大雨特別警報解除  
16:00 第4回災害対策本部会議  
23:35 洪水警報解除

**9月23日（月）**

---

14:00 第5回災害対策本部会議  
15:10 土砂災害警戒情報解除  
15:21 避難指示解除  
15:46 大雨警報解除

**9月24日（火）**

---

15:00 第6回災害対策本部会議

**9月25日（水）**

---

14:00 第7回災害対策本部会議

**9月27日（金）**

---

孤立集落解消（最大99集落、4,372人）

**10月6日（日）**

---

自衛隊活動終了

#### 1 珠洲市長からのメッセージ

珠洲市長 泉谷 満寿裕

##### ●各省庁からリエゾンとの密接な情報共有が迅速な対応につながった

各省庁から派遣されたリエゾンなど関係者と朝晩のミーティングを開いていたのは珠洲市だけだったと後になって知った。リエゾンが実際にそこにいてくれて、東京の本省とやり取りしてくれて、すぐに結果が帰ってくる。要望がすぐに反応が来る。安心感があった。石川県とのオンライン会議に備えて「何をお願いするか」ということも議論していた。

最初は「市民の命を守る」その一点。規模が小さい自治体なので、どこにどういう方がいるかを把握している。市民の顔と名前がわかっている。どんなことで困っているか、市民の顔を思い浮かべながら考えれば必要なことはわかる。そのうえで、リエゾンの助言を得て、国にどのような制度があるか、何が制度上のネックになるかを踏まえて的確な要望を出せたので、迅速な対応につながったと思う。

##### ●地震翌日に市の保健医療福祉調整本部、前年5月からの「生活サポート部会」引き継ぎ

前年5月5日の地震発生の翌日、内閣府調査チームの一員からのアドバイスで、市災対本部「生活サポート部会」を立ち上げていた。このため、元日の地震翌日に「保健医療福祉調整本部」を、部会を置いていた健康増進センターに設置した。

保健医療福祉調整本部をいち早く立ち上げていたことで、市役所本庁がハードの被害に対応し、保健医療福祉調整本部が高齢者独居世帯のローラー作戦など住民対応を発災直後からできた。これが、あとでいろんなところで効いてきて、すごくよかった。

当時から中心的に活動したNGOらが、元日の地震翌日から珠洲に到着。「ボランティアは控えて」との知事の勇気ある発言もあったが、前年からの人間関係もあって、いろんな方が珠洲に入ってきて、本部を置いたセンターでは連日、ミーティングをやっていた。

前年の部会設置を決めたときに、自分の頭の中で”阪神や東日本だけでなく、全国各地の災害が続いている、いろんなボランティアの組織・団体は、相当、進化しているはずだ”と感覚的に思っていた。実際、これまでの国内の災害で、いろんなことをやってきた積み重ねが、今回の地震の対策となった。ありがたいと感じることが多かった。（コラム参照）

##### ●豪雨災害の犠牲者は首長として大ダメージ=地震後の土砂災害危険地1か所ずつ確認

仮設住宅が9月末までには建設出来る見通しで、これからが少し見えてきたなと言うのが9月の半ばだった。地震後にTEC-FORCEの調査で分かった土砂災害のリスクがある70数か所も2月から1か所1か所、自分の目で確かめていた。

その中で、木の根っこが半分見えているような危険な場所、本当に危ないと思った海岸集落を、専門家の意見

を聞いて、県に相談して長期避難世帯としていた。長期避難世帯となると、斜面の工事が終了するまで、地震で壊れた家の修繕に入れないことになるのだが。

結果的に指定した地域は、豪雨で 10 数世帯が木っ端みじんになった。

珠洲市内では、3 人が犠牲になった。豪雨で人命を失うのは、首長としてはダメージが大きい。結果論だが、そのような事態を生じさせないように出来たのでは、何か手立てはなかったのかと思う。

### ●多くなった制度的な要望＝地震と豪雨のダブルで補助も実現

地震と豪雨災害によって、地震で準半壊の認定を受け、豪雨でも準半壊となって、それを合わせ技で認定したり、地震で壊れた農業機械を直してまた壊れたりした。そこは柔軟に、別々とか、合わせ技とかを、国に要請して実現していただいた。

国土交通省の能登復興事務所や、石川県の珠洲土木事務所ががんばってくれて、相当迅速だった。地震の時と違って、重機や業者が既に現地に入っていたので、豪雨の土砂災害後の道路の復旧は早かった。

地震の時には脇にいてくれた総務省の長期派遣リエゾンは、豪雨の時にはいなかつたが、自分の思いとして何とかならんのかと、県を通じて要望をあげ、国も難しそうだったが、いろいろ対応していただいた。地震と豪雨のダブルで補助しないと持たないが、要望していったら、実現していったことが多かった。

流木や堆積土砂をどうするか、農水省や環境省などの所管だが、撤去を国で出来ないかと要望し、一括してやってくれて助かった。仮設住宅の床上浸水は、当初、県が 2 か月かけてやり替えると言ったが、入居者からは短時間でと言う要望があった。市として出来る範囲の修繕をすることとしたが、それで良かった。床上浸水の対応は不慣れだったが、保健医療福祉調整本部が迅速に動いてくれて、専門ボランティアの助言とともにあって、床下にサーキュレーターを置いて乾燥させるなどの対応をしたのが良かった。

財政審の、”過疎地なので国として全て元に戻すわけではない”ということになると、厳しくなる。10 月 5 日に石破総理が来られて、大谷地区まで来ていただいたが、それぞれの地域を再生したいということをお伝えした。細かいことまでは言わなかつたが、いかに人口が少ないとこでも再生したいという私の思いをお伝えした。

### ●これまで、ちょっとずれていた線状降水帯＝地震後にがんばった農地に大被害

これまで、線状降水帯がかからても、ちょっとずれていた。20 日に危機管理室と打ち合わせはしていたが、21 日の台風の影響も分からず、気象庁の図を見てもそこまでの情報もなかつた。

9 月は、避難所の解消に向けて取り組んでいた。再度避難所を開けるとなると、マンパワーが必要になる。そのあたりを気にしながら、避難指示を判断した。金曜の夕方に、避難所の鍵を担当者に渡しておけば良かったのだが。

二重の被災は、前に向いてがんばろうという矢先だった。そこで事業の再建を諦めないようにという思いで。地震による、事業再建がほとんど出来ていないなかで豪雨となつた。特に農業の被害がひどい。地震後に国にも動いてもらって、5 割ちょっとまで作付けが出来て、3 割を収穫した段階で、また土砂と流木が流れ込み、収穫した米も浸水してひどい状態となつた。

### ●前年の地震 4 日目、「被災者への取材はご遠慮」と呼びかけ＝疲れてるのにがんばって説明していた住民たち

2023 年 5 月の地震発生から 4 日目に、生活サポート部会からの報告で、「マスコミから、何度も何度も同じことを聞かれて疲れる」と住民のみなさんが言つてるので、何とかならないかという話から、「報道機関へのお願い」として「被災者への取材はご遠慮ください」というメッセージを発信した。

地震直後、片付けているときに、マスコミの人から「何にお困りですか」といわれて、がんばって説明をする。でも「続けて聞かれるのは、もう勘弁してくれ。疲れが溜まつていて、マスコミに対するおもてなしもできない」と言われた。マイクとカメラを向けられると、対応しちゃうのが住民だ。ニュースの画面を見て、顔と名前が分かるので、その状況を目の当たりにした。

ただ、本部や私への取材では、マスコミは自制的だった。こちらの説明に声を荒げるマスコミもいなかった。配慮はしてくれたと思う。当時は、市役所からの記者会見を設定せず、「何時に集まつていただければ、あたらしい発表をする」というようなやり方だった。

元日の地震の後は、夕方5時から定例で記者会見をやると決めたことが良かった。

### ●情報発信で市民に「見通し」を伝える デジタルと紙どちらも大事

市民への情報発信で意識したのは「見通し」を伝えること。神戸市情報発信の方が対口支援で入つてこられたので、情報発信を任せた。広報紙やホームページなどのデザインも素敵で、簡潔で分かりやすい。1月7日から公式LINEで、炊き出し、お風呂などの情報を発信した。一方で、高齢者には紙ベースが大事。紙の災害広報を各避難所に届けた。どちらも大事なことだ。

### ●やはり大事なのは住宅の耐震化

よほどのことがないかぎり、こういうことにならないと思うが、住宅の耐震化は重要だ。そのお家の方の命だけでなく、近所の方の命も守る。住宅が倒壊すると避難が困難になるし、救命救助活動も大変になる。住宅の耐震化は本当に重要だ。

珠洲市では、幸い寺家地区の集落では、最初の地震で避難を始めていて、本震の前に避難していた。常日頃、地域の防災活動を行ってきた成果がでた。

### ●まさか、私の経験が事例集に掲載されることになるとは

事例集は、ずいぶん前から出ているので知っていた。あの時、宴会を、出張を、という、首長だったら、誰でも出くわす場面。伊豆大島のこととか、切実な話なので、ぐっとくる、いちばん役に立つ情報だ。災害に直面した首長の本音の部分が書かれているので、役に立つ。でも、まさか私の経験がここに掲載されることになるとは思わなかった。

## 2 災害の概要

1～6頁参照

## 3 被害の状況

（令和6年能登半島地震）

【人的被害】 死亡 161 人（うち関連死 64 人）、重傷 47 人、軽傷 202 人

【住家被害】 全壊 1,754 棟、半壊 2,089 棟、一部損壊 2,089 棟

【道路被害】 423 件

【河川被害】 83 件

【土砂被害】 5 件

【農業被害】 616 力所（26 ヘクタール）（25 億円）

【避難者数】 ピーク時避難所 94 施設、避難者 7,361 人

※令和7年3月現在。石川県まとめ

〈令和6年9月20日からの大雨〉

【人的被害】 死亡3人、軽傷9人

【住家被害】 全壊5棟、床上浸水113棟、床下浸水401棟

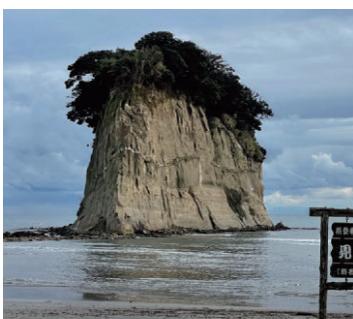
【仮設住宅被害】 床上浸水17戸

【道路被害】 60件

【河川被害】 44件

【土砂被害】 22件

【農地被害】 法面崩壊・土砂流入 265か所(140ヘクタール)(31億円)



珠洲市にある能登半島の代表的景勝地の見附島（軍艦島）の地震被害。左は地震前（珠洲市提供）、2023年5月の地震では表層が崩れた（中央・23年12月撮影）、2024年1月の地震後は大きく形を変えた（右・24年3月撮影）

#### 4 災害の時系列

〈平成30年頃から群発地震〉

石川県能登地方では、平成30年頃から地震回数が増え、令和2年12月から地震活動が活発になり、同年12月1日から令和5年12月31日までに震度1以上を観測する地震が506回発生。

令和3年

9月16日（木）

18:42 マグニチュード5.1、珠洲市震度5弱

〈市長〉地震があったときは、奥能登国際芸術祭の開催中だったが、夕方で開催時間帯ではなかったので良かった。珠洲ビーチホテルにいて、帰ろうとエレベーターを降りて出口から出ようとしたら揺れた。少し遅れたら、エレベーターに閉じ込められたところだった。すぐに役所に戻ったが、芸術祭の作品が壊れていないかを確認して、深夜に明日以降も開催出来ると確認が取れた。

令和4年1月から

珠洲市の市長、副市長が出席した意見交換会を、金沢大学の平松教授（地震学）や石川県、金沢地方気象台が参加して開催。以降、適宜、実施。

令和4年

6月4日（土）

「能登半島地震から15年シンポジウム 珠洲市付近の地震活動と地震防災」を、北陸自然災害懇話会主催、珠洲市と金沢地方気象台などの共催でラポルトすずで開催し、泉谷市長も参加。群発地震活動の概要やメカニズム、地震・津波の防災、地元高校の防災アンケート調査、自治体の取り組みなどを報告。

令和4年

6月19日（日）

15:08 マグニチュード5.4、珠洲市震度6弱

＜市長＞日曜日だったが、地震があったときは市役所の応接室にいた。2007年の能登半島地震の後、2008～2009年で市庁舎を耐震化し、2009年度に危機管理室を設置し、防災行政無線の機器も一元化し、機材をワンフロアにしていた。珠洲市は全部壊れてしまうのではないか、壊滅するのではないかという搖れだった。

一連の群発地震は、2021年の震度5弱が最大と思っていたが、流体が原因の地震で、一般的な地震と違って特殊な地震がずっと頻発して止まらない。いつまで続くのか、その期間中に起きうるのは最大どのぐらいか分からないので、ずっと警戒を続けてきた。震度6弱の揺れで、こんな大きな地震が来るのかと、座って感じていた。

庁舎にいた職員も少なかったので、たまたま、かかってきた電話を私が取ったらNHK。「市長です」と答えたたら、「生でインタビューいきます」と言われ、そのままニュースキャスターとやり取りすることになった。聞いていた人からは、かなり冷静でしたね、と言われたが。

市役所から町を見渡して、倒れていた家はなかった。瓦がずれて茶色い部分が見えていたりしたが、落ちているところはなかった。その後、知事に連絡をして空から見てもらった。国交省もヘリを出してくれた。上空から見てもらうことは大事だと言うことは身に染みた。土砂崩れが起きていて、集落が飲み込まれているところがあれば命に関わるので、いち早くという思いだったが、日が暮れるまでに、上空から見て大きな被害はないという連絡を県や国交省から受けて、ホッとした。

ただ、災害救助法も適用されず、生活再建支援金も出ず、被災した市民に何もしてあげられないのは辛い思いだった。議会からも、一部損壊に行政として何の支援もしないのかという指摘もされた。義援金などもそれほど集まらなかった。

その後、2022年度末には、落ち着いてきつつあるのかなと言う見方もあったが、震度1～2はずつとあったので警戒は必要だと考えていた。ただ、コロナも5類に移行し、GWは賑わって、反転攻勢だと言っていた時期だった。

〈石川県能登地方を震源とする地震〉

令和5年

5月5日（金）

14:42 マグニチュード6.5、珠洲市震度6強（震度5強 能登町、震度5弱 輪島市）

珠洲市被害 死者1人、重傷2人、軽傷44人

全壊36棟、半壊256棟、一部損壊1,096棟

＜市長＞地震が発生した瞬間は、のとキリシマツツジの古い木が大谷地区にあって、毎年見

にいっていたときだった。連休中で遅いかなと思いつつ、今年も見に行かなくちゃ、と思って向かっていた。国道 249 号線のループ部分にあるビュースポットに止まっていたときに揺れが来た。立っていられないほどではなかったが、20 センチぐらい横に振られた。すごい破壊力だなという印象はあって、街灯も揺れていたが、折れるほどの兆候はなかった。阪神のような光景にはならないだろう。5 強だと思った。道の両側の家も倒壊していないので、実際、大谷地区は 5 強だった。

役所に行かなきゃと、そこにいた市民にも「自分は今から市役所に行く」と言って、向かった。相当なスピードで市役所に向かって、15 時若干過ぎに着いた。その段階ではそれほど参集していなかった。

役所に着いてから 6 強と分かった。

15:40 避難所開設を指示し、17 時に 10 か所の避難所が開設。

＜市長＞まっさきに病院が気になって、病院の機能は維持出来ているということから始まって、まずは情報収集をした。断水も起きていた。翌日が大雨の予報だったので、ブルーシートを何とかしようと職員に電話させて、明日の朝に取りに行き、公民館で配ると言う段取りを決めたりしていた。避難所の開設とともに淡々とやっていた。

21:58 マグニチュード 5.9 の余震、株洲市で震度 5 強

＜市長＞21 時 35 分に「うちに帰ってメシ食ってくるわ」と言って家に帰った途端、震度 5 強の揺れは自宅でだった。今まで経験したことがない、ぐるぐるした変な揺れだった。株洲の全てが破壊しつくされるまで揺れ続けるのではないかと、本当の恐怖を感じた。

6 強では耐えていたが、5 強で倒れた家屋もあったという。その間も震度 2 とか 3 とかが続いていた。ずっと水の上に浮かんだ板の上に乗っている感じだった。

## 5月6日（土）

国土交通省の TEC-FORCE による調査開始、断水（最大 142 世帯）地域に県内自治体から支援の給水車の活動を開始。昼過ぎからブルーシートを各公民館で配布。馳知事視察（西田国土交通大臣政務官同行）

＜市長＞朝から、被害が大きいところを知事と一緒に回った。住民からは、「片付けが大変だからボランティアをお願いしたい。技能を持った方、道具を持っている方に来てもらえば、なお助かる」というような話も伺っていた。

17:00 災害対策本部に「生活サポート部会」（市、市社協、県、保健所、日本赤十字、ピースウインズ、ピースボート、日本災害看護学会など 45 名）を立ち上げ（部会長・三上豊子健康増進センター長）

＜市長＞内閣府調査チームの一員として現地入りしていた日本赤十字社医療センターの丸山嘉一医師（日赤本社の災害医療統括官）から、6 日午後に市長応接室で「災対本部の中に、医療福祉保健部会を立ち上げた方がいい」というアドバイスをいただいた。そこで、健康増進センターに拠点を置いて、三上センター長に仕切らせようと考えた。

## 5月7日（日）

65 歳以上の高齢者独居世帯へのローラー作戦開始

＜市長＞株洲生活サポート部会で、看護師と保健師などで何班かの体制を作って、被害がひどく高齢者も多い正院地区を中心に回ってもらった。血圧や体温を測り、食事の状況や何に困られるかをずっと聞いて回ってセンターで報告し、翌日の役割分担をしていた。

## 5月9日（火）

震災ガレキの仮集積所を開設（16市町 3組合）

＜市長＞群発地震も続いていたので、来年はどうなるか分からないと、令和5年度の予算では通常は1千万円の予備費を、3千万円にしておいた。このことで、最初のがれきの処理ができた。

「報道機関へのお願い」として「被災者への取材はご遠慮ください」というメッセージを発信  
(1 珠洲市長からのメッセージ参照)



2023年5月の地震で倒壊した珠洲市正院地区の須受八幡宮の手水舎（左）、町内には応急危険度判定で「危険」や「要注意」と張り紙された家が2023年の年末にも多く見られた（右）（23年12月撮影）

〈令和6年能登半島地震〉

## 令和6年

### 1月1日（月）

午前 <市長> 市内の狼煙（のろし）地区の新年互礼会に出席し、昼過ぎに自宅に戻っていた。夕方4時ぐらいからお酒を飲もうかなとも思ったが、なぜか午後6時ぐらいまでがまんする気になり、まったく飲んでなかった。

16:06 能登地方を震源とする最初の地震発生（マグニチュード5.5、珠洲市は震度5強）  
＜市長> 地震が起きたときは、居間で座っていた。かなり大きな地震だった。すぐに防災服を着替えていったん自宅を出たが、肌寒かったので、もう一枚着込んだ方がいいと思い2階に戻った。

16:10 「令和6年能登半島地震」（マグニチュード7.6、珠洲市は震度6強）  
＜市長> 着替えが終わったか終わらないかの頃に、考えられない揺れに見舞われた。「地震って、ここまで揺れるか」という激震だった。市役所から徒歩5分のところにある自宅の母屋は、昭和の初めに立てられたもので、築100年近い。昭和50年代、私が中学生の時代に、自宅の左右にあった家も買って増築していた。

揺れている最中、窓とふすまを両手でつかんで立っていたが、何もかもが壊れてしまうのではないかと感じた。タンスは固定しておらず、倒れた。「鎮まれー」と4回叫んだ記憶がある。廊下の窓枠もはじけ飛ぶような状況だった。震度6弱とか、数年で地震が頻発したが比べものにならない。あの揺れは、本当に恐怖を感じるものだった。前後左右上下。暴力的な揺れだった。今までの地震とは違う相当な被害、今までにない壊滅的な被害が生じると直感した。

2020年から能登半島で起きていた群発地震の要因は、地下13キロに東京ドーム30杯分の流体があり、地層に入り込んで滑らせているというものだった。これらの群発地震は揺れた瞬間に震度3とか4とか判別がついた。専門家から「怖いのは流体による地震が活断層を刺激して、マグニチュード7クラスの地震を起こすこと」だと言われていたが、今度の地震は明らかに流体ではない。「断層がずれたな」というのが直感で分かった。

- 16:12 石川県能登に「津波警報」発表 予想される津波の高さは3メートル  
<市長>津波というよりも、この揺れだけで、壊滅的な被害が生じていると感じた。息子に「お父さん、津波が来るから避難しよう。絶対津波来るって」と言われ、その瞬間我に返った。

そうだ、津波だ。外に出ようとしたが、家がゆがんでいたので戸が開かない。外にでると、家の向かいの外壁が崩れていたし、電柱も大きく傾いていた。数軒隣りの家は1階がつぶれて屋根が道路まで出ていた。自分の家も、道路と家とで10数センチも段差ができていた。

家族は高台に、自分は小走りで市役所に向かった。道路の損傷もひどい。段差や亀裂ができ、側溝もゆがんでいる。その様を見ながら、市役所はちゃんと立っていたので、ホッとした。

- 16:20 石川県知事に自衛隊の災害派遣を要請  
<市長>市役所に入ったのが16時20分。市役所について真っ先に、石川県の馳知事に電話をした。「壊滅的な状況です、直ちに自衛隊の派遣を」と要請した。知事からは「わかりました」という返事。私の携帯電話は災害時優先にはなっていなかったが、この段階では通じた。土砂災害の発生状況を把握するために防災ヘリコプターの派遣も要請した。2022年の地震の経験から、土砂に埋もれた人は、急がないと命が危ういと考えた。病院が機能しているか、土砂災害が生じているか。道路も人命救助も。ヘリを飛ばしてくれと言うのは明るいうちにと要請したが、県、国土交通省とも残念ながら日没のため飛べなかった。

奥能登広域圏事務組合の消防本部の機能もダウンしていた。光ファイバーが断線し、輪島市の本部や珠洲消防署などをつなぐ指令システムがダウンした。電話で連絡を取り合っていたことを後で知った。

- 16:22 石川県能登の「津波警報」を「大津波警報」に引き上げ  
<市長>津波警報、大津波警報を知らせる放送は、Jアラートを受信して自動で出ていた。放送の装置がある市役所の危機管理室は、地震で書棚が倒れて足の踏み場がなく、物理的に入れない状態になっていたので、放送のスイッチを操作することはできなかった。自動化されていて本当に助かった。

休日・祝日の宿日直は外部委託だった。自分が入ったときすでに職員が何人かいた。市役所の3階から上が津波の避難場所に指定されているので、避難してくる住民を誘導した。

- 16:40 <市長>津波だという声が聞こえた。目視は出来なかつたが、津波がどの程度かはテレビが付かないで分からぬ。非常電源は動いていることは音で分かった。非常電源の灯りは付いていた。しかし、非常電源が使えるコンセントが設置されていなかつたため。テレビが見られない、情報がわからず、市内の外浦と連絡が取れない状況だった。

- 夜間 避難所や病院の状況把握を試みる  
<市長>職員の参集を待つしかなかつた。地震が起きたとき副市長は蛸島町にいて正院町で車を乗り捨てて歩いて登庁した。職員は約200人いるが、発災直後には一割、20人いたかどうかだった。

避難所の状況も分からず。職員に区長へ連絡して状況を把握するように指示をした。普通は危機管理室や総務課の仕事だが、総務課にみんな詰めて、所属する課や室は関係なく対応した。一方で、市役所に避難してきた人を3階や4階の会議室に誘導した。珠洲市で開催している「奥能登国際芸術祭」の時は、ボランティアスタッフが足りないと、輪番で受付などをやっていた。何かあると、課室関係ないという意識があった。しかし、今思うと、区長に連絡して状況を把握するようにと言ったものの、動いていたかどうかはわからない。なかなか情報が上がらなかった。

病院の状況も確認しようとしたが、職員がたどり着けない状況だった。暗くなつてから「病院は機能している」という報告があった。

22:00 岸田総理、自衛隊と連絡 支援物資の拠点を決める

＜市長＞夜10時前後に岸田総理から電話があり、「壊滅的な状況だ」と伝えた。自衛隊ともやりとりをした。ヘリポートをどこにするか。支援物資の拠点をどこにするか。夜が明ける前に決めて欲しいとのことだった。

市立緑丘中学校に隣接する市営陸上競技場を自衛隊用のヘリポートにし、支援物資の集積・管理・配送の拠点を市立健民体育館にした。地域防災計画では健民体育館は「遺体安置場」と位置付けられていたが、地震で助かった命をつなぐ水や食料が絶対必要だから、効率的に届けられる健民体育館を支援物資の拠点に決めた。

## 1月2日（火）

1:15 津波警報解除、津波注意報に切り替え

＜市長＞夜が明けて、珠洲市中心部の飯田の町だけでもと、小一時間ぐらい歩いて確かめた。ひどい。地震直後に自宅から役所まで歩いた感覚以上にひどい。



左は飯田港周辺で地震と津波の被害、右は外灘の大谷地区の斜面崩落で道路が埋まった国道249号（珠洲市提供）

9:45 第3回石川県災害対策本部会議にオンラインで参加 「壊滅的な状況」と発言

「本当に壊滅的な状況。住宅の全壊、1千棟ほど出ているのではないかという感触。救急救助を行っているが、未対応が50件ほどある。陸上自衛隊金沢駐屯地の協力で、全壊家屋に閉じ込められている方を、できるだけ早く救出していただいている。金沢からのルートが確保されたのは、本当にありがとうございます。支援物資は枯渇している。水、食料、お子さんのミルク、お年寄りや赤ちゃん用のオムツ、女性用の生理用品など、あらゆるモノが不足している。

全域で断水していて、ほぼ停電もしており、今後も長期間にわたって、水、食料の供給、必要物資の供給を円滑にお願いしたい。市内全域で道路が寸断されており、孤立集落が多数ある。命の危険にさらされている人を把握が出来ない。安否の確認すら出来ない状況だ」（石川県のYouTubeから）

＜市長＞志賀町が震度7で珠洲市6強なので、奥能登はたいしたことはないと思われていたのかもしれない。人的被害、家屋被害がまだ把握できておらず、数字は答えられなかった。水、食料、毛布、カイロ、防寒具、オムツ、ミルクとか、仮設トイレをなんとかしてくれという話をした。物資は何人分、ということではなく、「全住民1万2,000人分届けてくれ」と伝えた。

10:00 津波注意報解除

10:15 金沢・珠洲間のルート確保（4トン以下）

自衛隊、緊急消防援助隊、警察による人命救助

孤立集落の確認、自衛隊による道路啓開

＜市長＞孤立集落の確認、自衛隊の道路啓開も始まった。指定避難所21か所に6,795人、自主避難所が18か所あることがわかった。自衛隊が足で稼いで、徒步で行って、何人いるかという情報が逐次入ってきた。

11:44 珠洲市総合病院の停電復旧

12:10 市役所の停電復旧

＜市長＞昼過ぎには、市役所の停電も、病院の停電も復旧したので、リアルタイムで情報は入ってくるようになった。津波の被害状況は、メディアのヘリの映像をテレビから得た。

市の災害対策本部に「保健医療福祉調整本部」を立ち上げ（コラム参照）。

海上からの物資の搬入に向けて、国土交通省に飯田港の接岸地点の調査と応急復旧を要請。

16:30 第4回石川県災害対策本部会議にオンラインで参加

「昼前後に実際に見て回った。壊滅的な被害となっている。建っている家はほとんどない。9割方、全壊、ないし、ほぼ全壊の状況。珠洲市は約5,600世帯だが、4~5,000世帯が自分の家では住めないという深刻な事態となっている。指定避難所、自主避難所合わせて35か所、5,300人が避難しているが、道路が寸断しているので、支援物資を届けるのが非常に困難で、自衛隊や消防団の皆さんにご協力をいただいている。被災された方は、口をそろえてまず水と、それと食料が必要となっている。たくさんの方が密になっている避難所もあり、トイレ事情が深刻。ポータブルトイレは届いたが、仮設のトイレを避難所の数に応じて設置をしたい。地震から24時間経ったが、折り重なるように倒れている家屋に取り残されている方がいないのか、確認が出来てない。災害救助犬2頭が働いているが、増やしていただきたいというお願いもしました。人命優先、避難された方のサポートに取り組んでいきたい」（石川県のYouTubeから）

＜市長＞「パン12,000個を積んだトラックが金沢を出たが、夜間通行止めの規制なので、穴水に置いていく」という連絡が県からあった。総務課長に何か車がないかと相談したら、市のワゴン車が5台あるというので、朝5時に穴水へ出してくれとお願いした。5人が出発して戻ってきたのが昼前だった。パンは市で把握出来る避難所に配ったが、いくつ配ったか分からない。県の対策会議でお願いをすると、翌日、すぐに対応していただいたことがほとんどだった。はやい、心強い、迅速に対応いただいた。

23:00 第5回石川県災害対策本部会議にオンラインで参加

「亡くなられた方の人数は、市で 22 人を確認した。避難所は、21 か所が指定避難所、地域で自  
主的に開設しているのが 18 か所あり、避難の場所は 39 か所、避難者の人数が 6,795 人となっ  
ている。昨年の地震と違って、長期化することを覚悟して臨んでいる。これから 12 時過ぎにパ  
ンが 12,000 食届くということで、ありがたく思っている。届き次第、各避難所にお配りした  
い。これからも、水、食料は珠洲市の在庫は底をついているので、次々と迅速に供給頂きた  
い。お子さんのミルクも手に入りにくい状況で、大人用、赤ちゃん用のオムツや女性用生理用  
品の提供もお願いしたい。いま、トイレの事情が非衛生的になっている。水が断水で流せない  
ので、大が大変な状況になっており、確保していただいた仮設トイレも迅速に届けて頂きた  
い。数もまだまだ足りないと思うので、数を増やして頂くことをお願いしたい。最後に、本  
日、災害対策本部に保健・医療・福祉調整本部を立ち上げた。前回の 5 月 5 日の時も、翌日 6  
日に立ち上げたが、内容は健康増進センターを中心に、保健、福祉、日本赤十字、ピースウイ  
ンズのボランティアの方を含め、高齢化率も高いので、きめ細やかに対応したい。前回もかな  
り成果を得られたと自負しているが、引き続き能登北部保健福祉センターのご協力をいただく  
よう、お願いしたい」。(石川県の YouTube から)



令和6年1月2日 第5回災害対策本部員会議  
連日、危機管理室から参加した県災害対策本部員会議（石川県の公式 YouTube から）

### 1月3日（水）

5:00 市職員が穴水町まで支援物資のパンを受け取りに行く

9:30 第6回石川県災害対策本部会議にオンラインで参加

「地震発生から 42 時間、人命優先で市民の命を救いたい。消防に入っている救助要請で対応で  
きていないのが 72 件もある。昨日、災害救助犬の増強をお願いしたところ、さっそく今朝から  
全国各地から続々お越しいただき、25 頭+α となっている。消防、珠洲警察署や緊急消防援助隊、  
全国からお越しの警察関係の方に割り振っている。まだ、全壊した家屋に閉じ込められている方  
がおられると思うので、全力を上げていく。自衛隊、消防、警察で、珠洲市のエリアを大きく 3  
つに分け、役割分担をすることも進めようとしている。外浦はなかなか到達が困難なため陸上自  
衛隊に、市役所を中心とした南東部は警察に、宝立を中心とした地域は消防にお願いをして進め  
ていきたい。

物資は仮設トイレ、トイレは限界で、公衆トイレの中はてんこ盛りで、誰も排泄できない状況  
で切羽詰まっている。至急大量に仮設トイレの手配をお願いしたい。水、食料もまだまだ足りな

い。ドンドンと送っていただきたい。そんな中で、本日から、国土交通省の TEC-FORCE 1 班 4 人が道路啓開に向けた調査・作業を行っていただく。日建連の方が珠洲道路の啓開作業を行っていただく。本当に心強く思っている。物資供給で港を使いたいが、地域の人の話では港が隆起して高屋の港では水深 2 メートルもないのではないかという。大きな海上自衛隊の船は接岸できないと思う。物資を載せたゴムボートなどで接岸をするなどの工夫をお願いしたい」（石川県の YouTube から）

#### 穴水町此ノ木～のと里山空港間の夜間通行止め解除

避難所巡回を開始。避難所での診療と医療ニーズの把握目的

罹災証明書の受付開始を 1 月 9 日に決定

<市長>市民課長や税務課長と話をし、罹災証明は 9 日からやろうということになった。NPO の支援もあり、3 日に通れる道マップが作られ、徐々に地図になっていった。朝 7 時、夜 7 時に情報共有ミーティングを開き始めたのが、2 日か 3 日だった。市長応接室に 30 人ぐらい入って、そこで道路情報なども共有した。



市長応接室での情報共有ミーティングの様子、後頭部が珠洲市長（珠洲市提供）

市の対策本部員会議の構成メンバーが参集出来ないこともあったし、集めてやって効率は良くないので、限られた人数で情報を共有しながら、常に判断をしていくのが、精一杯だった。それで不都合があるとも思えなかつたので、3月末まで、私が危機管理室に詰めていた。私が市長室に籠もっていても二度手間。私が危機管理室に座って、その隣に副市長と総務省からのリエゾン、国交省のリエゾンがいた。本部会議とかやっていなくても、ずっと本部会議をやっている感じだった。県のオンライン会議も、危機管理室から参加していた。



珠洲市危機管理室の様子、背中向きが市長（1月3日17時56分、珠洲市提供）

18:00 第7回石川県災害対策本部会議にオンラインで参加

「もう50時間ほどになる。人命優先で取り組んでいただいている自衛隊、警察、海上保安庁、消防関係の皆さん方に、本当に心から感謝を申し上げたい。72時間まであとわずかだが、最後の力を振り絞っていただきたい。亡くなられた方の人数は、現在23人を確認している。明日から応急危険度判定を始めていただける。珠洲市は来週、9日から罹災証明書の受付を始めたいと考えている。5月5日の地震の時もだが、罹災証明の受付や被害家屋の調査にマンパワーが必要になる。今回は能登広域で被害が生じているので、職員の派遣を他の県からもお願いできるよう、県で調整をお願いしたい。大きな地震を受けて、ゴミの焼却施設が稼働するかどうか、これから確認をする。もし、稼働できないことになったら、近隣自治体の応援をお願いすることになるので、よろしくお願いしたい。下水道は停電でポンプが稼働しない状況で、下水が溢れるのを防ぐために電源車が必要になる。北陸電力でご検討いただいているが、県としても電源車についての応援の確保をお願いしたい。引き続き、水食料の供給、仮設トイレの供給をお願いしたい」（石川県のYouTubeから）

#### 1月4日（木）

避難所（自主避難所含む）94か所に7,668人が避難

支援物資が届き始める

仮設トイレ42基が到着（市内10か所に37基、市役所に6基設置）

総務省など関係省庁のリエゾン、自治体応援職員が参集（福井県が避難所、静岡県浜松市が物資を担当）

9:30 第8回石川県災害対策本部会議にオンラインで参加

「あと6時間で72時間経過となる。人命救助、捜索をしっかり行って参りたい。救助の通報で未対応が20～30件あり、優先して取り組んでいる。安否不明者は10人とのことだが、情報を至急お願いしたい。緊急消防援助隊の皆さん方が、避難所を回りながら一名一名確認していくとおっしゃっているので、リストをお願いしたい。

避難所は、60か所近くに上っており、8,000人ほどになっている。移動が出来ない、通信が出来ない状況で、衛星電話10台が届いているが、もっと必要なでお願いしたい。避難所を、福井県の方に今日からお願いをしていくが、過密になっている。仮設住宅完成まで2か月ほど要するだろうが、できるだけ分散を図りたいが、屋内で電気が来ていないところも多々ある。何とか、

屋外テントや発電機などで暖を取れるようなことが展開できないか、ご検討をいただきたい。

水食料は、ヘリでしか輸送できないところもあるが、天候次第で届けられないこともあり、現地で仮置きすることも考えていくので、珠洲市へまとめて届けていただきたい。道路は4トンが限界で時間もかかることがあるが、できるだけまとめて必要なものを届けていただきたい。

地域の自主的な避難所で発電機のガソリン、暖を取る灯油が不足している。おそらく珠洲市のガソリンスタンドへも供給されていないと思うので、さまざまな手段、船舶なども含めて燃料の供給をお願いしたい。ライフラインは、下水が溢れかえる状況が迫っている。北陸電力の電源車がこちらに着いた模様なので動かしてみたい。他にも処理場や水道など、電源車の数が多ければ助かるので、北陸電力で複数台こちらに送っていただけるのか、他地域へと働きかけをお願いしたい。仮設トイレは、今現在まだ設置されていないので、届けていただきたいが、配置したらバキューム処理が必要になる。できるのは市には1社しかないので、他地域からの手配をお願いしたい。断水の解消までには相当、時間がかかる。シャワーも浴びられない、洗濯も出来ない状況が2か月も続くのは大変なので、そういうことが出来る船をこちらに配備することもご検討いただけないか。なんとか大地震で助かった命も、水食料がなければ生き延びられないで、よろしくお願いしたい」（石川県のYouTubeから）

＜市長＞4日にたくさんの応援がきた。3階の会議室に各省庁の島を作り、体制を作った。国土交通省や自衛隊は道路啓開、経済産業省は停電対策、総務省の移動基地局の手配など、必要なことを私とやり取りしながら進めてくれたので助かった。実際にそこにいてくれて、東京の本省とやり取りしてくれて、すぐに結果が帰ってくる。要望がすぐに反応が来る。安心感があった。

#### 17:40 第9回石川県災害対策本部会議にオンラインで参加

「水食料の供給は、何とか軌道に乗りつつある。ヘリでの大谷小中学校への輸送もすることが出来た。今後、長期化するので、珠洲市への物資の輸送について、陸路、ヘリなどの空路に加えて、船での輸送も検討いただきたい。飯田の港は接岸は確保できそうだが、臨港道路が速やかに復旧出来れば、金沢から富山に運んで飯田にあげるルートも検討いただきたい。仮設トイレは市内10か所37基を設置できた。明日は、今届いているトイレに加えて入ってくるので、明日中に設置したい。孤立集落は、自衛隊に尽力いただき、宝立から折戸まで、内浦の沿岸部も通行可能になって、ずいぶんと移動が可能になってきた。まだ、大規模な土砂崩れで道路が塞がったり、トンネルが塞がっているところもある。命に関わることなので、応急的な仮復旧でよろしいので、今後ともよろしくお願いしたい。

本日、応援に入っていただいている方も合同での災害対策本部会議を行った。福井県からの応援は避難所の管理などを、浜松市の職員は支援物資の集積と管理を担っていただくことにした。福祉に関わる方々や自衛隊を含めて、道路の現状がどうなっているかの情報共有も進めていくことにした。連携が整ってきた。明日以降も、さらに軌道に乗せていくたい。

衛星電話は、10台届いていて配布をしているが、まだ電波が届かないでやり取りが出来ない地域が多いので、衛星電話をさらに配分いただきますようお願いしたい」。（石川県のYouTubeから）

## 1月5日（金）

自衛隊の協力により支援物資の集積・管理。配送が早朝から本格化。

ガソリンを積んだタンクローリーが到着。

＜市長＞4日には、避難所が94か所で7,700人が避難していることがつかめていたので、5日午前に水食料が行き渡るようになった。午前7時には、健民体育館が、配送センターのように整っていたことで安心した。その時点では、対口支援の浜松市が物資の管理を担っていただき、力仕事と配送は自衛隊が担当していた。

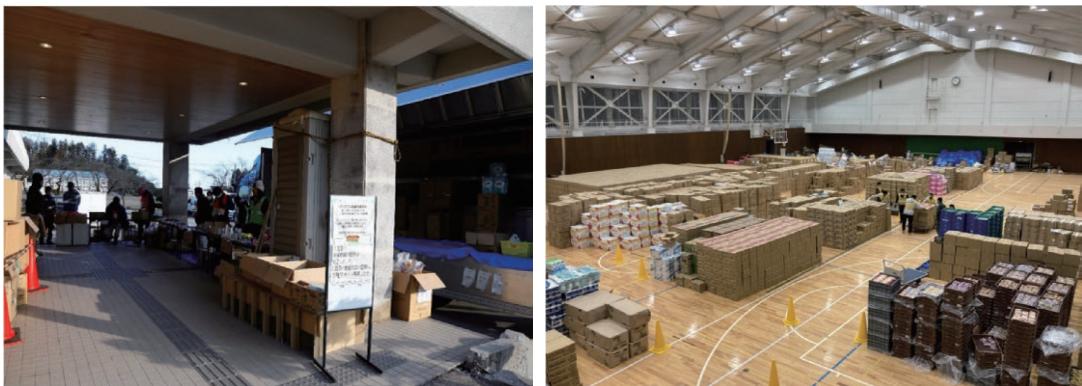
10:00 第10回石川県災害対策本部会議にオンラインで参加

「5日目の朝となった。混乱がだいぶ収まりつつある状況。これまでの皆さまのご支援に改めて感謝したい。避難所の飯田小学校を見てきた。水食料は、発災後から3日までは地元スーパーや商店から物資を支援いただいたり、住民の方が持ち寄ってなんとかしのぐことが出来た。昨日から物資が行き渡り始めて、とりあえず大丈夫。避難所の運営は、町内会ごとに教室を割り振るとか、ペット可能な場所を設けるとか、町内会ごとにリーダーを決め、それぞれの方がお掃除担当、物資を運ぶなど、うまく運営されていた。

学校も早期授業再開に向けて取り組む必要がある。飯田小学校では体育館に押し寄せている土砂を排土できれば、そちらにお移りいただき、教室を開けて授業を再開したい。そういう一つ一つの課題を解決していくことも進めていきたい。

物資の集積運搬の拠点となっている健民体育館も朝見てきた。7,500人分ぐらいの必要物資の一日分が集積されていて、自衛隊の皆さんのが各避難所に事前に割り振って、横付けになった自衛隊車両に各避難所に向けた物資が積み込まれて、次から次に出ていく。相当体制が整ってきた。珠洲市としては、避難所にいる方の人数分だけでなく、地区に住んでいる全員分の水食料を充たしてあげたい。そういうことも、今日から明日にかけて、ルーティン化してこなしていきたい。物資を今の約2倍送っていただければ、珠洲市から各地区にプッシュ型で送れるので、是非、お願いをしたい。

孤立集落も、大谷町まで自衛隊の車両が通れるところまで解消しているなど、ありがたい。重機にも、ゴミの運搬収集にも、全てにおいて燃料が必要になる。ガソリンスタンドも枯渇しているので、一刻も早く、珠洲市へガソリン、軽油をお届けいただきたい。緊急消防援助隊の皆さんも指揮所を設けて、一つ一つ建物をローラーしていただいている。心から感謝したい」（石川県のYouTubeから）



珠洲市健民体育館を支援物資拠点とし、市内各避難所へ搬送（珠洲市提供）

16:00 第11回石川県災害対策本部会議にオンラインで参加

「馳知事を始め、皆さんに全力の支援をいただいている、重ねて感謝をしたい。支援物資の供給は、体制を徐々に整えることが出来ている。また、二次避難所として、石川スポーツセンターとか、ホテル旅館とか、いろんな取り組みにも感謝したい。いま、混みいった避難所を、いかにしてゆとりを持たせて、安心して身体を休める環境にしていくかが非常に重要。一つは停電の復旧で解消されれば、それほど被害がないところなら家で休める。北陸電力はがんばっていただいているが、応援いただけないか。

治安が悪化してきている。「金沢に避難してもいいが、地元を離れることが出来ない」という状態が続いてしまう。なんとか、火事場泥棒のようなことがないよう、治安の維持をお願いしたい」（石川県のYouTubeから）

**1月6日（土）**

被災者生活再建支援法が適用される。

自衛隊による炊き出し、入浴支援開始

市内の一部のガソリンスタンドが営業再開

資源エネルギー庁電力基盤課と電力の復旧についてオンライン会議

＜市長＞6日には自衛隊の入浴が始まって。ガソリンスタンドも営業再開。避難所にも電源車が入った。外浦との連絡が取れるようになった。

**1月7日（日）**

DMATによる薬の配布が可能になる

LINEを活用し、避難者全員の把握を進める

＜市長＞これまで、幹部とリエゾンなどとの会議調整で進めていたが、改めて災害対策本部会議を開催した。9日から、罹災証明の受付を始めると言うこともあって、行政としての対応を決めておこうと言うことがあったので改めて本部会議を開いた。

**1月8日（月）**

いしかわ総合スポーツセンター（金沢市）を1.5次避難所として開設

市民交流センターの停電が復旧し、市役所の避難者を移動

福井県副知事とオンラインで意見交換

ご遺体の火葬について県に要望

**1月9日（火）**

罹災証明書の受付開始

**1月10日（水）**

避難所のゴミの収集について県に増強を要請

**1月11日（木）**

熊本市からキャンピングカー19台が届く

避難所視察（第一長寿園・第三長寿園・宝立小中学校・柏原林旧保育園・上戸小・上戸旧保育園・鵜島旧保育園・飯田高校）

直小学校・みさき小学校・三崎中学校で授業再開

＜市長＞熊本市からのキャンピングカーは、支援の方が市役所の廊下や会議室に溢れていたので使っていただいた。授業再開については、教育長と常にコミュニケーションを取って決めていった。11日から、避難所の巡回を始めた。「何に困っているのか」を聞き、「もっともだ

な」と言うことを書きとめて、リエゾンや本部会議に投げた。自ら避難所を見るとみないのでは違う。市民の話を聞くこと、何がどうなっているのかを市民に伝えることは大事だ。

### 1月 12 日（金）

応急仮設住宅 みさき小(50戸)・正院小(40戸)グラウンドで着工

応急仮設住宅第一次入居申込み受付開始

避難所視察 直小・スズカ・正院小・蛸島小・蛸島旧保・若山小

自衛隊入浴支援（蛸島小）

### 1月 13 日（土）

宝立浄水場に可搬式の浄水プラント3基導入することを決定

応急仮設住宅の建設用地に耕作放棄地も視野に入れる。県に、坂茂氏が宮城県女川町で手掛けた3階建ての仮設住宅を要望

### 1月 14 日（日）

岸田総理・馳知事・松村内閣府特命担当大臣（防災）・古賀内閣府副大臣が緑丘中を視察

飯田港の荷上場仮復旧

宝立浄水場に可搬式の浄水プラントを搬入するため郷の道路を仮復旧

＜市長＞「できることは何でもやる」とおっしゃっていただいた。要望することは全て要望をしていたので、改めてお願いするということはなかったのではないか。要望をしたことはほぼやってもらっていた。御礼の言葉を言ったと思う。

国への要望事項は、特に意識して投げていたのではなく、本当に必要なことは何かをずっと考えていた。

### 1月 16 日（火）

1月 16 日から在宅全戸ローリング開始。在宅の生活状況の確認と医療ニーズの把握目的

（令和6年9月20日からの大雨）

### 9月 20 日（金）

17:26 「大雨と強風及び高波に関する石川県気象情報 第6号」21日18時までの予想24時間降水量は多い所で能登100ミリ、22日18時までの予想24時間降水量は多い所で能登100ミリ  
＜市長＞台風が戻ってきて到達するのが9月22日なので、警戒しなくてはならないということだった。

### 9月 21 日（土）

6:26 大雨警報（土砂）

6:55 金沢地方気象台からホットライン（1回目）

＜市長＞9月議会が20日で終了し、21日は休む予定でいた。連休だが予定はなく、自宅にいた。出来ればゆっくり寝たかった。

気象台から「まもなく、土砂災害警戒情報を出す」というホットラインの電話があつて目が覚めたと思う。

身支度をして出たが、実際のところ、雨はそれほどでもなく、やや強い雨ぐらいで、たたきつけるような降り方ではなかった。土砂降りというほどでもなく、強い雨が降り続いたわけではなかった。車のワイパーもそんな状態ではなかった。

7:00 土砂災害警戒情報

- 7:35 市長が登庁  
　　＜市長＞役所に着いたときに、頭を切り替えた。登庁したら、副市長や総務課長がいた。避難指示を早く出さねばと、防災行政無線をかける担当者とやりとりした。  
　　線状降水帯の可能性という話はまだなかったが、雨雲レーダーを見ていると、今がピークかなと思うと、また雨雲が湧いてきていた。
- 8:08 大谷地区へ避難指示
- 8:20 若山地区に避難指示  
　　＜市長＞避難所を開設してからではないと避難指示は出しづらい。危険な大谷地区は早くだそうと、大谷地区の土砂災害警戒区域に8時8分に避難指示を出した。大谷地区は、740世帯ぐらいだが、午前7時の土砂災害警戒情報の後に地元の消防団は既に動いていて、ポンプ車を巡回して避難をよびかけていた。この分団の動きはありがたかった。8時20分には、若山地区にも避難指示を出した。  
　　8時過ぎから雨がドンドン降ってくるようになり、9時過ぎぐらいから、まずいぞという感じになってきた。避難所は閉めていたところもあったので、職員が公民館などのカギを開けに行く必要があるので、8時ぐらいから参集の指示をするが、すぐに集まれなかつた。
- 9:07 顕著な大雨に関する石川県気象情報
- 9:27 金沢地方気象台からホットライン（2回目）  
　　＜市長＞ホットラインの電話の記憶がない。みるみる状況が変わっていく。それだけの降り方は経験がない。どこが溢れているかの情報が入ってこない。参集しようという職員から川が溢れていて、市役所にカギをとりに来れないという連絡があり、タイミングが遅かったなと言う思いがあった。職員には安全なところへ引き返せと指示をした。
- 10:00 避難指示（全域）  
　　＜市長＞珠洲市全域に避難指示を出したが、防災行政無線も雨で聞こえない。その時には、市役所前の通りにも濁った水が入ってきていた。避難指示を出した後も、「坂道が水で歩けない」とかの連絡が入ってきた。
- 10:50 大雨特別警報
- 10:52 金沢地方気象台からホットライン（3回目）  
　　＜市長＞11時ごろに馳知事から「輪島市から自衛隊の派遣要請が来たが、珠洲はどうするか」と電話だったので、「お願いします」と答えた。  
　　大谷地区で山が一つ崩れたという情報が入ってきた。お昼ぐらいに、若山地区で自宅の下敷きという情報が入ってきた。住宅地図をみると、土砂災害警戒区域ではないが、半壊のお宅にいた方だった。  
　　土砂が崩れたところは、直ちに救助しないといけないが、道路が再び通行止めとなり、寸断された道路の啓開が必要になる。断水で水をどう配るかの給水車の手配。被害状況が入ってこない孤立集落の確認に入る必要がある。
- 17:00 県の第2回本部員会議  
　　＜市長＞オンラインで参加して、県に対して孤立集落のことなどの状況の報告をし、必要な物資、給水などを要望した。

## 9月22日（日）

10:20 大雨特別警報解除

11:00 県の第3回本部員会議

＜市長＞孤立地区の状況を報告し、自衛隊による安否確認、人命救助、一日も早い水道の復旧への支援を要請した。

自衛隊の方から、人命救助の中でひどい状況だという話は聞いていた。安否不明者の救助が、なぜままならないのか、と思っていたが、写真を見て、これはなかなか無理だと思った。

## 9月23日（月）

＜市長＞午前中に知事が珠洲市へ来たので、一緒に大谷地区へ入ったが、土砂が崩れたところまでは、ぬかるんでいて近づけなかった。

大谷地区では、地震でそれほど被害がなかった郵便局など、町の中心部が土砂で埋まってしまった。また、地域によっては裏山が崩れてひどいことになっている。みんなの絶望感がひどいだろうと感じた。

この日から、地震でも入ってくれていた名古屋市の上下水道局が応援に来た。6月に入って大谷地区の断水が解消していたが、浄水場が土砂で埋まってしまった。水は急ごうにも、この道路の状況で、たどり着けるのかと思った。本当に復旧出来るのかと。地震後に仮復旧したものを、導水管が道路ごと抜けている。崖下に管が落ちている。ひと月そこらではむりだと思った。結果的に2か月ちょっとで復旧したが、断水の解消は手こずった。



左・竹中川流域の被災状況、右・大谷浄水場の被災状況（珠洲市提供）

## コラム：珠洲市の保健医療福祉調整本部

阪神・淡路大震災後、災害医療の DMAT（災害派遣医療チーム）を始め、医療関係で DPAT（災害派遣精神医療チーム）、JRAT（日本災害リハビリテーション支援協会）、災害支援ナースが活動。保健所など保健関係で、DHEAT（災害時健康危機管理支援チーム）、DICT（災害時感染制御支援チーム）、福祉関係では DWAT（災害派遣福祉チーム）など、被災地内での保健医療福祉の活動が行われるようになった。

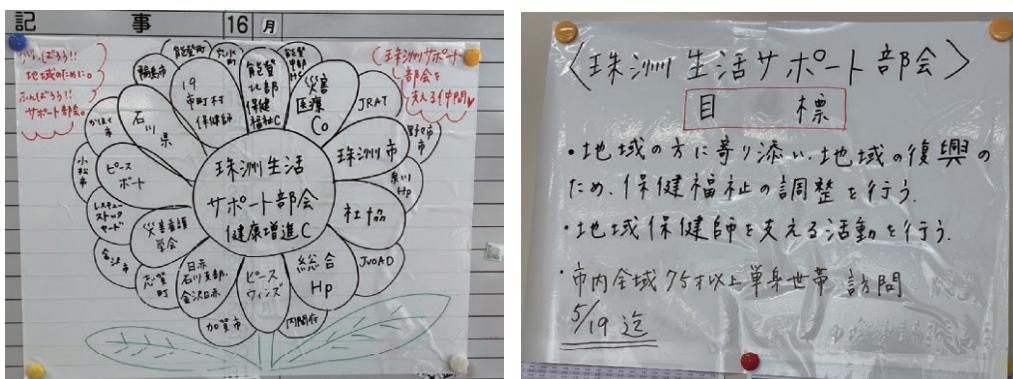
一方で、災害発生時に、それぞれのチームと、自治体の担当部署やNGO・NPOやボランティアも含めた保健・医療・福祉の関係団体との連携不足が課題となった。このため厚労省が、これらのチームの派遣調整や情報の連携、活動の総合調整を担う保健医療福祉調整本部を、被災都道府県で設置する関係5局長・1課通知を、2022年7月に出している。

珠洲市が2023年5月の地震翌日に設置した「生活サポート部会」は、基礎自治体での保健医療福祉調整本部を実現した初めての事例という。24年1月の地震では、同部会の経験を元に、市としての保健医療福祉調整本部を、地震翌日に設置した。

本部長（部会長）を務めた三上豊子健康増進センター長によると、23年5月の地震翌日、内閣府調査チームの一員として現地入りしていた日本赤十字社の丸山嘉一災害医療統括監が健康増進センターを訪問し、保健医療福祉の対策本部の必要性をアドバイスされたことがきっかけ。高齢者が多い珠洲では、被災後も避難所にも来ない住民が少なくないとして、保健医療福祉で連携して取り組む必要性があると判断。丸山医師と共に市長に働きかけ、6日午後、その場で「災害対策本部の下部組織として、長期的に住民と寄り添ってサポートする『珠洲生活サポート部会』設置の指示を受けた」という。

「災対本部がある市庁舎には、いろんな人が出入りするが、あえて5分離れたセンターで立ち上げた」（三上氏）。同日17時には、日赤やNGO、地元の珠洲市総合病院や医師会代表、保健所などの関係者ら35人が集まって、第1回の会議を実施し、丸山医師やNGOの医師が、会議体の意義を説明。地震から3日後から、被害がひどかった正院地区などの65歳以上の独居高齢者などの戸別訪問を開始し、2週間で1300件行った。9日には、珠洲食生活改善推進員による炊き出しや、10日には入浴出来ない方を一般社団法人すずバスがバスを出すなど、部会の議論を元に、市長とやり取りをして、実施してきたという。

泉谷市長は、「信頼出来る支援団体との人間関係が、5月の地震で築かれていたことが、とてもなくでかい。生活サポート部会の立ち上げは、三上センター長ならば裁けると判断し、設置を即答した。元日の地震後も、自衛隊や省庁のリエゾンなど、いろんな人と情報を共有しながら動けたことが大きい」と意義を述べている。



(珠洲市健康増進センターに2023年12月19日に掲示されていた生活サポート部会の図)

## 1 能登町長からのメッセージ

能登町長 大森 凡世

### ●事前の協定や連携は役立つ

災害に備えて締結していた協定は役立った。町内に営業所がある佐川急便、段ボールベッドの事業者と協定を結んでいた。発災直後は支援物資の管理、避難所への配送に町職員の手が取られていたが、佐川急便にお願いした後は管理がスムーズになり、職員の負担も減った。ドライバーはもともと地元で配達をしている人で、道もよく知っていたので助かった。

姉妹都市からもすぐに支援があった。千葉県流山市・宮崎県小林市は物資だけでなく、応援職員も送ってくれた。また、東日本大震災の際、能登町から応援職員を派遣した宮城県亘理町などからも応援が来てくれた。

### ●県や国への要望は、命がけで真剣に伝える。優先順位をつけることも大切

1月2日から石川県の災害対策本部会議にオンラインで参加した。最初は被害の全容が分からず、困っていることを伝えるだけだったが、参加の意義として、国や関係機関の情報を一括して把握できたことと、国や県にさまざまな支援のお願いを直接伝えられたことがある。本部会議で要望を伝えると、その後の対応が速かった。

本当に困っていることは、ある程度強く言わないと対応してもらえない。真剣に、命がけで言う。そうしないと切羽詰まっている状況が伝わらない。また、要望を伝えるときは優先順位をつけて言うようにした。

発災から間もなく、ガソリン不足が課題となり、道路の寸断でタンクローリーも入ってこられない状況だった時は、命に関わる問題だと訴えた。地域産業として重要な能登牛の牧場が孤立し、餌を与えられないことが判明した際も、本部会議で強く訴えた。いずれも、優先的に対応してもらえた。この対応がなければ、能登牛が全滅する危険性もあった。

さまざまな制度について、条件の制約の問題がある場合も、しつこく訴えるようにした。条件緩和の要望など、担当者レベルで進まないことは、首長から伝えるしかない。そのあたりは、知事や県選出の国会議員の協力も大きかった。国から町に入っているリエゾンも、「これは言ったほうがいい」「こういう場で伝えたほうがいい」と助言してくれた。

### ●他自治体や関係機関からの応援の仕組みを理解し、頼れるところは頼る

大災害が起きた場合の自治体支援のシステム、仕組みについて、事前の勉強が不足していたと思う。国や自治体、自衛隊などから応援を受けるという経験がなく、最初は次々に入ってくることに戸惑った。被害の情報が限られている中で、どんな支援を頼むべきか、例えば道路啓開をどの場所から依頼するか、そういうことを決めるのは難しかった。そのときどきで即決していたが、それが正解だったかは分からない。

災害時はこういうふうに応援職員が入って来る、ということが経験して初めて分かった。今になってみれば、応援職員にもっと遠慮なく頼めばよい部分もあったと思う。災害前から支援の仕組みについて理解していれば、もっとうまく対処できたかもしれない。

発災直後は町職員が避難所運営にかかりきりになり、本来役場で行うべき業務ができなかつたので、対口支援

の職員に避難所支援をお願いした。1年あまりたった現在も全国から70人以上の応援職員が入ってくれており、大変助かっている。皆、経験や技術がある。

東北の被災地の首長から助言を受けたことも役立った。首長が前向きな気持ちでいること、毅然と決断すること、まずは元気でいることが大切、といった助言をもらった。

### ●疲弊する職員への目配りを。「1日1回笑おう」というメッセージ

やはり、時間とともに自分自身も職員も疲弊する。職員への気遣いは大切。職員が課題を抱え込まないよう、首長のほうから困っていることを聞き出したり、声掛けをしたりする必要がある。1日1回でも笑うことが大切、と思っている。発災から1か月ほどたったころだと思うが、職員にもそういうことを伝えた。

### ●ボランティア、民間団体の力は大きい

災害支援の経験が豊富な民間団体「OPEN JAPAN」には本当に感謝している。重機を扱えるチームもあり、公的な制度では難しい道路復旧、がれきの処理など、多くのことに対応してくれた。避難所での炊き出しも、ボランティアの力は大きかった。

ただ、当初はいろいろな団体、機関の人が入ってきて、信用できる団体かどうか判断することが難しく、戸惑った。（職員談：内閣府の書類にOPEN JAPANの団体名が書かれてあるのを見て、信用できる団体だと認識した）

### ●復興には人が集まる場が重要。伝統の祭り文化を途切れさせない

6、7月あたりからは、できる範囲で行事を再開しようと考えた。コロナ禍で行事を自粛せざるを得なかつた苦い経験があり、人が集う場があるほうがいいと思った。集まることで、住民が話をする。行事をすることで、地域が動き、町外に避難した住民も帰ってくる。集う場を仕掛けていかなければ、ずっとやらなくなってしまう。

能登はキリコ祭りの文化が根付いている。宇出津（うしつ）地区のあばれ祭は住民の話し合いで7月の実施が決まり、町としては開催に向けた道路、歩道の応急復旧を県にお願いした。祭りの大切さは、ここで育った人しか分からない部分もある。2024年は復興祈願として行った。祭は皆が協力しなければできないもので、共助にもつながる。

地震の復旧の途上にあった9月、豪雨災害が発生し、復興計画の最終案公表は予定より約2か月遅れた。豪雨は本当に辛かった。神も仏もないと感じた。住民もそうだっただろう。しかし、一つ一つできることをやるしかない。

復旧や復興に向けた動きが住民に見える形で現れにくい時期は、現状がどんな段階にあり、役場がどう動いているかをできるだけ伝える努力が大切である。

## 2 災害の概要

〈令和6年能登半島地震〉

令和6年1月1日（月・祝）16時過ぎから地震が相次いで発生

震源・能登地方 マグニチュード7.6

16時10分 能登町で震度6強を観測 ※最大震度7（輪島市・志賀町）

### 〈令和6年9月20日からの大雨〉

9月20日ごろから、前線が日本海から本州付近に停滞し、21日は前線上の低気圧が日本海を東へ進んだ。また、22日には台風14号から変わった低気圧が日本海から三陸沖へ進んだ。石川県では21日午前中に線状降水帯が発生。能登地方では線状降水帯により猛烈な雨が降り、気象庁は21日10時50分、輪島市、珠洲市、能登町に大雨特別警報を発表した。

能登町での最大1時間降水量 9月21日9:00～10:00 86mm（北河内ダム）

能登町での最大24時間降水量 9月20日23:00～21日23:00 260mm（北河内ダム）

### 3 被害の状況

#### 〈令和6年能登半島地震〉

【人的被害】 死亡60人（うち直接死2人・関連死58人）、重傷30人、軽傷25人

【住家被害】 全壊269棟、大規模半壊104棟、中規模半壊175棟、半壊713棟、準半壊1,086棟、一部損壊3,425棟

【火災被害】 焼損11棟、焼損床面積1,727平方メートル

【避難状況】 最大避難所開設72か所、最大避難者5,481人（1月4日時点）

【断水】 最大6,220戸（全域）

【道路被害】 456路線、236億円

【その他の主なインフラ被害】 橋梁24橋（25億円）、林道38路線（12.1億円）、漁港10港（46.7億円）、下水道56km（約30%、91.4億円）

#### 〈令和6年9月20日からの大雨〉

【人的被害】 死亡2人、重傷1人、軽傷2人

【住家被害】 半壊6棟、一部損壊61棟、床下浸水231棟

【避難状況】 指定避難所14か所、自主避難所4か所、避難者168人（9月21日14:00時点）  
(10月26日すべて閉鎖)

【孤立集落】 北河内地区、桐畠地区、田代地区（26日11:00までにすべて解消）

【停電】 最大640戸

【断水】 最大230戸

※令和7年3月31日時点。能登町提供

### 4 災害の時系列

#### 〈令和6年能登半島地震〉

##### 地震発生前

〈町長〉2007年3月の能登半島地震の時は町職員だった。能登町でも震度6弱を記録し、日曜日だったが役場には来ていた。町内の施設の確認などを行い、大規模な被害は少なかったと記憶している。個人的には、それまで大きな地震の経験はなく、強い揺れに驚いた。

東日本大震災（2011年）で津波の脅威を目の当たりにし、多くの人が「まずは自分の命を守ることが重要」という意識を持ったと思う。私個人としては、家族で防災リュックを用意し、その中のラジオを毎日のように使ったり、ローリングストックをしたりしていた。

能登町としては、閉所した保育所を2020年度に改装し、備蓄倉庫にした。食料や水、毛布、

テント、簡易トイレ、段ボールの間仕切りなどを用意していた。指定避難所にも分散して備蓄はしていた。しかし、今回の地震では全く量が足りなかった。

能登半島では2020年末ごろから群発地震が続いており、地震への備えは意識していた。ただ、町職員時代に福祉部門を担当していた者として、要支援者の避難支援については一筋縄ではいかない難しい問題だと感じていた。

2023年5月5日に珠洲市で震度6強、能登町で震度5強を記録した地震の際は、町内におり、すぐに役場へ駆けつけた。被害確認をしたが、町内で大規模な被害はなく、泊まり込んで対応するような状況ではなかった。

### 1月1日（月・祝）

16:06 本震4分前の地震発生。能登町は震度4

＜町長＞発災の瞬間は、役場から約1キロの自宅にいた。親類が集まり、正月のごちそうを前に「さあ、これから」というところだった。大きな揺れを感じたが、室内に被害はなく、役場に向かう準備を始めた。揺れはすぐに収まったと記憶している。そして、ちょうど家を出ようとしたところに、16時10分の本震が来た。

16:10 本震。能登町は震度6強

16:12 津波警報

＜町長＞強い揺れが1分ほど続き、その間はまったく動けなかった。揺れの方向と家具を置いている位置の関係か、自宅の室内に大きな被害はなかった。家族には「ごめんな、行ってくるわ」と言って、普段と同じく徒歩で役場を目指した。

自宅は港のすぐ近くで、いつも見ているので、地面の沈下がすぐに分かった。ふだん海水がかぶっていない場所に水がかぶっていた。隣の家を見ると、自分の家に寄りかかっていた。港付近の道路は割れ、岸壁も壊れていた。役所への道中では完全に倒壊した家もあり、「おーい」と声を掛けながら歩いたが、人の気配は感じられなかった。津波警報が出ていたので、皆、高台へ避難していたのだと思う。途中では誰にも会わなかった。「これからどうなるのだろうか」と途方に暮れる気持ちになったことを覚えている。

16:22 大津波警報（石川県能登）

＜町長が後に家族から聞いた話、後に自身で確認した状況＞自宅に集まっていた家族や親類は、高台にある妻の妹宅へ避難したことだった。自宅近くには、高台のお寺とお宮さんに通じる階段があるが、当日は土砂崩れや倒木で上がれない状況だったと聞いた。自宅周辺で人的被害はなかったが、車のタイヤが半分くらい浸かるほど津波が来ており、水が引いた後はガレージが砂だらけだった。

16:30すぎ 町長登庁

＜町長＞警備の人がいて、職員も数人いた。庁舎の周りの地面は沈降しているようだったが、建物に大きな被害は見られなかった。すぐに町長室がある庁舎の3階に上がった。電気が通じていたのは助かった。地震直後は携帯電話も通じていた。

夕刻から夜 参集職員は全体の3割弱、40人程度

＜町長＞少しずつ職員が集まり、職員が出勤途上で見てきた町内の様子を聞いた。まず必要なのは状況把握だった。町内は断水。避難所に物資を届けなければならなかつたが、問題は道路の被害だった。

役所内に備蓄物資はなく、職員がトラックを運転して備蓄倉庫に取りに行き、各避難所に

分配することにしたが、倉庫にたどり着くことが困難だった。普段なら10分ほどで行ける場所でさえ、職員が出ていくと何時間も戻ってこられず、連絡も付かない。職員が役所に戻ってきて初めて、通れない道路や孤立集落の情報が分かるという状況だった。

- 19:30 石川県発表、被害状況第1報（能登町関連分、以下同じ）  
住宅倒壊、孤立あり。けが人発生の情報あり。避難所開設8か所。災害対策本部の設置については「職員参集中」（第3報で、1月1日16:30設置と記載）。  
20:30 大津波警報から津波警報に切り替え（石川県能登）  
21:00 災害救助法適用決定  
<町長>『町全域の被害は想定外だった』正直なところ、町全域の被害は想定していなかった。部分的な被害であれば対応できると思っていたが、全町被害となると事前に避難所を確保することも難しい。自治体合併で、公共施設となるべく減らす方向で考えていたが、大災害を考えるとなかなか減らせないと思った。水や食料などの備蓄品は、もう少し量を確保しておくべきだった。また、もっといろいろな業種の相手と協定を結んでおく必要もあった。



白丸地区



小木地区



鵜川地区

- 深夜～ <町長> 1月1日から2日にかけての夜中、避難所への物資配布を行った。  
1月2日朝 役所の電話は鳴りっぱなしで、救助要請、被害が出ている場所の報告、安否確認、水や物資の要請など。その場にいる職員が受けるしかない。私も何度も電話に出た。  
それぞれの地域では、住民や消防団員が安否確認、救助活動をしていた。後で分かったが、松波地区で多くの負傷者が出ていた。ただ、救急車がたどり着くのは困難な状況だった。松波地区では住民が中学校の体育館に避難し、そこに地元の医師がいたとのことだった。

1月2日になっても出勤できない職員は多かった。3階の会議室で、町内の地図を張り出し、被害状況を付箋に書いて貼っていったり、ホワイトボードに集めた情報を書き出したりしていった。2日の朝には、地図が付箋で埋まってしまっていた。

### 1月2日（火）

- 1:15 津波警報から津波注意報に切り替え  
8:00 石川県が県職員1名をリエゾン派遣  
8:30 石川県発表、被害状況第3報  
火災発生（20棟）、鎮火。避難所・避難者は21か所、3,000人。

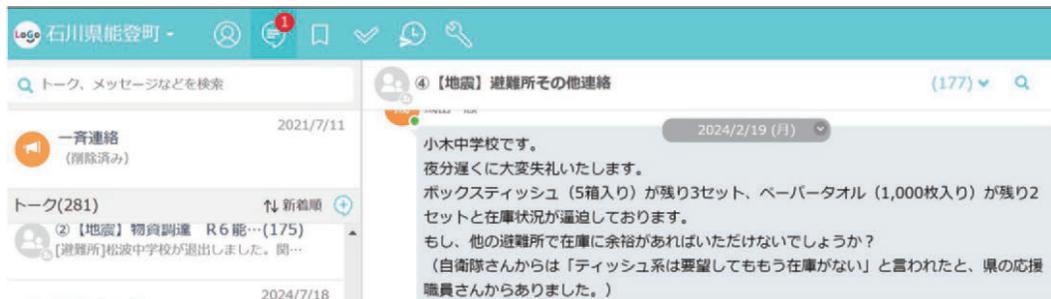


白丸地区火災（1月1日 22:16 覚知）

- 9:45 第3回石川県災害対策本部会議。町長がオンライン参加  
町長「能登町も壊滅的な状況。町内全域が被災している。電気と水がない。一刻も早く物資の供給をお願いしたい。避難者は48か所に4,700人。車の中で避難している人もいる」  
10:00 津波注意報解除  
12:56 岐阜県大隊が救助活動を実施（消防庁）  
13:00 石川県発表、被害状況第4報  
重傷2人（10代男性、40代男性）、軽傷5人。  
13:35 新潟県大隊が救助活動を実施（消防庁）  
15:30 石川県発表、被害状況第5報  
避難所・避難者は42か所、3,700人。停電約6,000戸。  
16:05 新潟県大隊が救助活動を実施（消防庁）  
16:30 第4回石川県災害対策本部会議。町長がオンライン参加  
町長「避難所へ物資を届けるので精一杯。町民全てに届けられていない。職員も参集できておらず、人手が足りない。携帯電話がつながらない地域が多く、情報が入るのが遅れるため、対応も遅れてしまう。水、食料が底をついている。道路の被害も激しく、支援物資の配送をスムーズにするためにも応急対応をお願いしたい」  
17:00 岐阜県大隊、新潟県大隊が救助活動終了（消防庁）  
21:30 石川県発表、被害状況第6報  
死者2人（詳細確認中）、重傷8人、軽傷5人。倒壊家屋多数。避難所・避難者は59か所、5,200人。停電6,200戸。断水戸数不明。漁船転覆、ため池亀裂あり。  
23:00 第5回石川県災害対策本部会議。町長がオンライン参加  
町長「10代男性、80代女性の死亡確認。重傷者8名。骨折した人も避難所にいる。北河内

地区、十郎原地区が孤立している。自衛隊の給水車が3台到着し、給水を開始。内閣府と石川県からの支援物資が（金沢を）出発したと聞いた。おそらく（1月3日の）朝がたの到着だろう。避難所は自主避難所も含め59か所、約5,200人。水がない。仮設トイレが早急に必要。滋賀県から総括支援チーム（災害マネジメント総括支援員）2名を派遣いただけるとのことで、連携していきたい」

〈町長〉「避難所と役場のやり取りにLoGo（ロゴ）チャットを利用」避難所にいる職員とのやり取りは、LoGo（ロゴ）チャットを活用できた。これは災害前に整備しておいてよかったと思う。



LoGo（ロゴ）チャットの画面

## 1月3日（水）

- 8:00 石川県発表、被害状況第7報  
死者2人、重傷8人。住家の全半壊、一部損壊多数。北河内地区16世帯20人が孤立。
- 9:30 第6回石川県災害対策本部会議。田代副町長がオンライン参加。  
副町長「本日午前中にパン3,000個が届いた。配布中。道路の陥没、ひび割れが大きく、避難所に物資が行き届かない。昨日から自衛隊が避難所で給水。食料、水、ミルクを早急に提供していただきたい。仮設トイレが足りない。ガソリン不足も心配。携帯電話がつながらないところが多い」
- 14:00 石川県発表、被害状況第8報  
死者2人、重傷9人、軽傷18人。
- 15:00 石川県発表、被害状況第9報  
避難所・避難者は65か所、5,200人。北河内地区の約20人が孤立。4日から被災建築物応急危険度判定を実施予定。愛知県の給水車派遣予定。
- 18:00 第7回石川県災害対策本部会議。能登町参加なし  
夜 滋賀県からの総括支援チームが到着  
《府内の状況》  
石川県の災害対策本部会議（オンライン）で報告すべき内容をまとめる必要があり、町でも災害対策本部会議を開くようになった。職員はほとんど何も食べていない状況だった。

## 1月4日（木）

- 8:00 石川県発表、被害状況第10報  
死者2人、重傷9人、軽傷25人。孤立集落は北河内地区（約20人）、桐畠地区（人数確認中）。避難所・避難者は63か所、5,505人。停電6,300戸。断水6,200戸。
- 9:30 第8回石川県災害対策本部会議。町長がオンライン参加

町長「被害家屋数は調査中だが、多数。孤立集落の状況確認は、自衛隊にお願いした。水、食料、ブルーシートが必要。本日、国・県からパン1万個、発電機10個、灯油1,000リットルが届いた。滋賀県からの支援チームも昨日夜遅くに到着し、避難所支援の要請を快諾してもらった」

15:00 石川県発表、被害状況第12報

死者2人、重傷10人、軽傷25人。孤立集落は北河内地区（約20人）、桐畠地区（約9人）、十郎原地区（人数確認中）、田代地区（約7人）。内閣府が手配したパン、トイレットペーパー、ミルクをトラック協会の協力で能登町などに配送。総括支援員（滋賀県）が活動中。能登三郷斎場は火葬炉3基中2基が損傷し、1基のみ稼働。

17:40 第9回石川県災害対策本部会議。町長がオンライン参加

町長「孤立集落をさらに1集落確認。電話はつながっているが、自衛隊に支援をお願いしたいと思っている。支援物資はプッシュ型で入ってきてている。水道管の本管が損傷している。まず本管の復旧をお願いしたい」

«避難者数ピークは1月4日»

## 1月5日（金）

8:00 石川県発表、被害状況第13報

孤立集落は北河内地区（約20人）、桐畠地区（約9人）、十郎原地区（人数確認中）、田代地区（約7人）、水滝地区（約5人）。避難所・避難者は72か所、4,930人。対口支援チームとして、滋賀県、茨城県、和歌山県から派遣決定。石川県の保健師を1月5日から避難所に派遣。断水はほぼ全域。

10:00 第10回石川県災害対策本部会議。能登町参加なし

14:00 石川県発表、被害状況第15報

学校の被害は、宇出津小学校ほか4校で体育館内壁破損など。

16:00 第11回石川県災害対策本部会議。町長がオンライン参加

町長「避難所ではインフルエンザなどで体調を崩す人が出ている。DMATの増員をお願いしたい。燃料については2台のタンクローリーが入って来たが、今後も輸送をお願いしたい」

茨城県からのリエゾン到着

## 1月6日（土）

8:00 石川県発表、被害状況第16報

避難所・避難者は63か所、4,170人。停電3,300戸。ほぼ全域の断水は変わらず。

10:00 第12回石川県災害対策本部会議。町長がオンライン参加

町長「住家の被害戸数は調査中。孤立集落には避難を要請中。避難所に物資を届けるのに職員の手が取られ、通常業務がままならない。物資の要望としては、炊き出し用の無洗米。お年寄りや子供が生活しやすくなるように段ボールベッドもお願いしたい。住民からブルーシートの要望もある」

14:00 石川県発表、被害状況第18報

孤立集落は北河内地区、桐畠地区、水滝地区等。停電3,200戸。ほぼ全域断水は変わらず。

16:00 石川県に被災者生活再建支援法適用決定

第13回石川県災害対策本部会議。町長がオンライン参加

町長「支援が次々に来てくれている。住家被害は、本日ようやく調査の指示をした。昨日夜 10 時すぎにおにぎりが届いたが、消費期限が 1 月 5 日だった。できれば消費期限の長いものをお願いしたい」

和歌山県からのリエゾン到着  
町役場と応援県による業務分担検討会議実施

1月7日（日）

14:00 石川県発表、被害状況第 21 報

避難所・避難者は 69 か所、3,833 人。孤立集落は水滝地区(5 人)、柳田信部地区(8 人)。停電約 3,100 戸。環境省の災害廃棄物処理支援員制度（人材バンク）で応援職員を派遣（東京都、八王子市）。

16:00 第 14 回石川県災害対策本部会議。町長がオンライン参加

町長「物資は順調に入ってきており、孤立集落は、徒歩で物資を運ぶことができる状況。仮設住宅建設に向けてスタートはしているが、ホテル、旅館の部屋の借り上げについて、県からの割り当てをお願いしたい。来週以降、自衛隊のお風呂を開設予定。洗濯の支援について他の地域はどうしているか知りたい」

滋賀県応援職員を避難所に配置

1月8日（月）

14:00 石川県発表、被害状況第 24 報

避難所・避難者は 60 か所、3,015 人。孤立集落は水滝地区(5 人)、柳田信部地区(8 人)。対口支援チームの派遣決定（滋賀県、茨城県、和歌山県、宮城県）。停電約 1,900 戸。断水約 5,810 戸（ほぼ全域）。

16:00 第 15 回石川県災害対策本部会議。町長がオンライン参加

町長「野菜不足になっているのか、便秘薬を求める声が出ている。常備薬の支援が必要。発生から 1 週間で、職員が疲弊してきている。避難所運営と物資供給の支援人員の増強をお願いしたい。電気の復旧につれ、若い人が家に戻り、避難所の高齢化が進んでいる。高齢者が夜間にトイレに行く際など、転倒の心配もあって職員の支援が必要になっている。物資は柳田体育馆に保管しているが、かなりいっぱいになっている。輸送体制の強化が必要」

茨城県応援職員を避難所に配置

県が 1.5 次避難所（いしかわ総合スポーツセンター）開設

＜町長＞「大まかな被害の全容把握には約 1 週間」町内の被害の全容が大まかに把握できたのは、発災から 1 週間くらい経ったころだったと思う。

1月9日（火）

14:00 石川県発表、被害状況第 27 報

避難所・避難者は 63 か所、2,898 人。孤立集落は変化なし。停電約 1,700 戸。

16:00 第 16 回石川県災害対策本部会議。町長がオンライン参加

町長「倒壊家屋はざっくりした調査だが、約 350 棟が倒壊。孤立集落は計 13 名。全国の自治

体による給水活動、避難所支援があり、避難者の健康管理も徐々に行われている。2次避難者は本日3名、10日に8名の予定。避難所では生活用品の細かい要望が出てきているが、こたえきれていない。たんぱく質や食物繊維、ビタミンを含んだ食料の支援が必要」

罹災証明の申請受付開始

自衛隊の入浴支援開始（藤波、柳田、松波）

#### 1月10日（水）

16:00 第17回石川県災害対策本部会議。町長がオンライン参加

町長「災害関連死（とみられる死者）が2名。紙コップ、紙皿、割りばしなどが不足。ごみの収集ができない状況なので、一般ごみの収集、処分について力添えをいただきたい」

総務省リエゾン到着

和歌山県応援職員を避難所に配置

#### 1月11日（木）

16:00 第18回石川県災害対策本部会議。町長がオンライン参加

町長「感染症が広がっている。来週から人数の多い避難所に段ボールベッドを入れ、感染症対策を進める。まとまった人数で、2次避難をしてもらう方がいいと考えている。1.5次避難について、能登町へのバスの手配がされていなかった。継続的な支援をお願いしたい」

避難所運営会議開始（以後ほぼ毎日）

Aコープ（スーパー）営業再開

#### 1月12日（金）

16:00 第19回石川県災害対策本部会議。町長がオンライン参加

町長「関連死（とみられる死者）が新たに2名。1.5次、2次避難を促す声かけをしており、県のバスでの移送が始まった。1.5次は22名、2次は4名。住民に、できるだけ2次避難への理解を深めてほしいと思っている。住家の被害調査に向け、支援職員の派遣、罹災証明発行の簡素化をお願いしたい。上下水道は、道路の復旧と一体で行うことが重要だが、町の専門職が不足しているので、国、県の支援をお願いしたい」

#### 1月13日（土）

16:00 第20回石川県災害対策本部会議。町長がオンライン参加

町長「2か所13名の孤立集落へは、いずれも徒步での通行のみ可能。自衛隊の支援で物資を届けている。1.5次、2次避難については避難者から問い合わせが多く寄せられている。『1.5次、2次という言葉が分かりにくい』との声もある。道路の復旧は、ボランティア受け入れの前提ともなるので重要」

一般家庭の可燃ごみ回収開始

宮城県から応援職員、石川県の災害マネジメント支援員到着

能登高校を応援自治体用宿舎として利用開始

#### 1月14日（日）

16:00 第21回石川県災害対策本部会議。町長がオンライン参加

町長「孤立 2 集落 12 名。柳田信部地区(7名)は介護施設。近くの公民館への移動準備を進めている。1.5 次避難は、高齢者が長時間のバスの乗車に耐えられないことなどが課題。町内で福祉避難所を開く必要がある。能登牛の大規模な農場へ通じる道路が寸断され、餌の運搬が困難な状況。能登牛はこの地域の宝であり、生業の再建に重要」

住家被害調査を開始

#### 1月 15 日 (月)

16:00 第 22 回石川県災害対策本部会議。町長がオンライン参加

町長「関連死（とみられる死者）が新たに 2 名。柳田信部地区の介護施設にいる 7 名の避難が決まった。仮設住宅が本日から着工。住民からはブルーシートのニーズが高い」

仮設住宅入居の受付開始

避難所から仮設風呂へのマイクロバス送迎開始

能登牧場の餌運搬の道路開通

#### 1月 16 日 (火)

16:00 第 23 回石川県災害対策本部会議。町長がオンライン参加

町長「最後の孤立集落となっていた地区の 5 名も避難する見込みで、孤立は解消予定。能登牛の農場に通じる道路の応急復旧で、餌の運搬の目途が付き、感謝している。上水道については昨日、160 世帯が復旧。一歩ずつだが進んでいる。ペットを帶同した 2 次避難で、1 泊 2 千円が必要になっているそうで、避難の希望を取り下げる人が出ている。現場でトラブルになる事例もあり、再考をお願いしたい」

松波中学校の避難所に段ボールベッド設置（以後、1 月 24 日まで他の避難所にも設置）

#### 1月 17 日 (水)

孤立集落の避難完了

災害情報に関する公式 LINE を運用開始（発災前に開始準備段階だった）

公式 YouTube チャンネル開設

小木中学校の避難所に段ボールベッド設置

#### 1月 19 日 (金)

福祉避難所（小木）開設

#### 1月 21 日 (日)

中学生 42 人がバスで金沢に集団避難

災害情報に関する公式 X（旧 twitter）を開設

〈令和6年9月20日からの大雨〉

**9月21日（土）**

- 8:02 大雨警報（土砂）
- 8:36 洪水警報
- 8:47 金沢地方気象台からホットライン（1回目）  
〈町長〉20日は普通に帰って自宅にいた。気象台から、「土砂災害警戒情報を出します」という電話が来た。雨は降っていたが、そうでもなかった。役場へ出てくる前に「（防災無線の）放送をかけて」と連絡をした。
- 8:55 土砂災害警戒情報
- 9:25 防災行政無線で「土砂災害警戒情報が出たので注意して」との注意喚起
- 9:30 公民館に自主避難所として避難者受け入れを要請
- 9:53 防災行政無線で自主避難所と垂直避難の呼びかけ
- 10:08 石川県記録的短時間大雨情報 第5号「10時に石川県で記録的短時間大雨 能登町北部付近で約100ミリ」
- 10:30 能登町災害対策本部設置
- 10:40 北河内地区の区長から地区孤立と行方不明者の電話  
〈町長〉区長から電話がかかってきて、北河内が大変なことになって、1人流されたという。1階が土砂で埋まった家の2階から飛び降りて動けない人もいるが、1本しかない道が崩れているという。こっち（役場）はそうでもなかったが、状況は分かったので、直ちに知事へ電話をして、自衛隊に救出をお願いした。
- 10:50 大雨特別警報、町内全域に避難指示発令  
〈町長〉空振りでも、避難指示は出さなくてはいけないと思うが、迷った。役場付近も降っていたが、それほどではなかった。山手の状況は、分からない。実際には、川沿いは溢れていって、避難しようにも出来ない状況だった。  
気象データを見ながら、突然湧いてくる感じで、これが線状降水帯か、すごいことだなど感じた。輪島や珠洲にかかるている雨雲が、もう少し南に下りたら対処しようがないなと思っていたら、一気に降り始めた。  
目の前の川の水位がずんずん上がってきて、みるみる間に溢れた。本当に辛かった。どういえばいいか。一つ一つやれることをやるしかない。地震の時も思ったが、神も仏もないと。



柳田総合支所付近の様子（9月21日）

- 17:00 石川県災害対策本部会議(第2回)に町長がオンライン参加  
避難所開設状況、避難者の数、孤立集落、氾らん河川、行方不明者、仮設住宅の断水・停電など、調査段階での報告をした。
- 19:33 北河内地区からけが人1名救出  
<町長>自宅から飛び降りた方は、自衛隊と消防が1時間半ぐらいかけ、土砂の上を担架で手運びして救出していただいた。

### 9月22日(日)

- 10:10 大雨特別警報解除
- 13:20 自衛隊 北河内地区へ物資輸送(徒歩)
- 18:00 桐畠地区への道路啓開、孤立解消



能登町役場駐車場（9月22日）

### 9月23日(月・祝)

- 10:45 土砂災害警戒情報解除、避難指示解除

### 9月26日(木)

- 11:00 北河内地区への道路啓開、孤立解消  
<町長>地震の応急復旧をやっていた事業者の方には、雨を優先してくれないかとお願いして、土砂撤去や道路啓開をやっていただいた。裏山から土砂が流れ込んだ家もたくさんあつたので、出来るところをやって欲しいと、OPEN JAPANにもお願いした。  
地震からの復興計画は中間発表を終えて、最終案の前の段階だった。自然というのは防ぎようもないのは、地震も水害も一緒だ。



能登町内の豪雨被害（北河内地区）

## 1 七尾市長からのメッセージ

七尾市長 茶谷 義隆

### ●全国の首長をつなぐLINEが重要だった

災害対応が本来の目的ではなかったが、全国の首長300人ぐらいが登録しているLINEのグループが作成されており、登録している首長と情報交換や共有ができる状況であった。

発災時は国、県からは要請しなくとも物資が届くプッシュ型体制であったが、グループLINEを通じ全国の自治体から水や食料が翌日から届き、非常に助かった。

### ●ボランティアも含めた人のつながりが重要

全国の自治体職員や、災害ボランティアの方との繋がりが大きかったと感じている。以前から親交のあった岡山県の総社市長からは、すぐに災害ボランティアの方が宿泊できるテント村の提案をいただき、テント100張が準備された。おかげで、ボランティアの宿泊地から現場までの移動時間が短縮され、ボランティア業務が効率的に進められた。

また、地元の方たちがテント村で炊き出しを行ったこともあり、災害ボランティアの方には長期間にわたりボランティアをしていただいた。

僕が感動したのは、ボランティアの方たちは、まず、自分たちはボランティアをさせてもらっていると言っていたこと。してあげるという目線ではなく、ボランティアをさせてもらっているという目線であったこと。そして、被災者の自立を促すため、全てを行うわけではなく、自分でできることは自分でやってくださいと、はっきり言っていたことである。



設置されたテント村の様子（写真・七尾市提供）



トイレ問題が大きな課題に・中能登総合事務所に設置された仮設トイレ（写真・七尾市提供）

### ●頑張っている職員をケアすることも重要

長期の災害対応を見越して職員には、早い段階で「最低でも週1日休むように」、「丸1日休めなから半日を2日でもいいから休むように」、「休んでしっかり食事を取って、睡眠も取るように」という指示を出して いた。そういうことも大事だと思っている。

### ●水が命だった 通水状況を細かく市民に伝えて不安がようやく落ち着いた

断水で、水が使えないことが1番大きかった。

七尾市は県南部からの水（県水）の供給が多くを占めており、上水道の復旧については、送水元に近い管から水を流して漏れを確認し修理する必要があった。時間がかかるのは仕方なかったと思っているが、県水が通るのは4月以降だという情報が県から先に出てしまい、市民は一気に不安になったと思う。

そのため、市内の各町ごとの通水見込みを一覧表にし、毎日更新して市民へ情報の「見える化」を行い、それで少しあは落ち着いた状況であった。やはり、市民にいろんな状況をどう伝えるかということはとても重要である。



七尾市岩屋浄水場内の配管損傷状況（写真・七尾市提供）

### ●市民への伝達方法が重要

当初、市民への情報発信はホームページ等で発信したが、（市民に）なかなかホームページを見てもらえないなかった。特に年寄りの方は（ネットを）見る事が難しいこともあります、新聞の折り込み広告などの発信も行ったが、手元に届くまでに時間がかかることもあります、新しい情報として発信できないことがネックであった。そのため、ほかの発信手段として七尾市のケーブルテレビを使い、加入している市民への速やかな情報提供を行った。

また、1月下旬から週に1度、記者会見でメディアを通して、随時新しい情報を発信できたことも良かったと思っている。しかし、各フェーズや状況により必要な内容や情報も変わっていくため、その変わっていく情報を正確に伝えることが非常に難しかった。

### ●情報の発信態勢の整備も重要

今回の震災の教訓としては、給水情報、廃棄物処理など市民に発信すべき情報が多岐に渡っており、それを全部まとめて収集できる体制を早くから作っておかないといけないということである。

情報の発信源は各担当課となるが、災害対応に追われて、情報収集や収集した情報をまとめることに時間がかかり、古い情報のままホームページ等がそのまま残ってしまうこともあった。

本部会議では、できる限り新しい情報に更新するように指示していたが、徹底することが難しかった。また、電話での問い合わせを減らすために、よくある質問をホームページ等で発信するように指示したが、なかなかうまくいかず情報整理が十分ではなかったことが課題である。

### ● 1. 5次避難や2次避難はあまり遠方への避難は現実的ではないと思う

今回、石川県による1. 5次避難や2次避難が実施されたが、自宅に住めず長期間避難する場合は、ある程度エリアごとにまとまり避難していただく方が、食事の提供や健康管理が出来たのではないかと考えている。

1. 5次、2次避難所が、（七尾市からは離れた）金沢市や加賀市などであったことから、避難者は支援を受けるため、七尾まで手続きに戻る必要があったが、どうしても移動に時間がかかるてしまうこと、また、避難者に必要な支援情報が正確に伝わっているか把握することが困難であった。

避難後の生活再建についても遅れがでることから、せめて移動距離が短くなるよう、能登のエリアに1. 5次避難ができるような防災アリーナみたいなものがあればよかったですと考えている。

## 2 災害の概要

令和6年1月1日（月）16時過ぎから地震が相次いで発生

震源・能登半島 マグニチュード7.6 「令和6年能登半島地震」

16時10分 七尾市で震度6強を観測 ※最大震度 震度7（輪島市・志賀町）

## 3 被害の状況

【人的被害】 死亡47人（うち直接死5人・関連死39人）、重傷34人、軽傷3人

※令和7年3月11日現在

【住家被害】 全壊515棟、半壊4,965棟、準半壊3,652棟、一部損壊7,613棟

※令和7年3月11日現在

【孤立集落】 中島町河内地区 約10人（1月5日解消）

【停電】 最大4,200戸（1月3日時点）

【断水】 約21,500戸（ほぼ全域で解消4月1日、ただし一部では解消できず）

【避難状況】 避難所開設32カ所、最大避難者2,681人（1月5日時点）

1.5次避難者数 20人、2次避難者数 711人

【通信状況】 七尾市内では混乱は少なかった

※被害の状況 七尾市提供

#### 4 災害の時系列

##### 1月1日（月）

- 16:06 地震発生（M5.5、最大震度5強・七尾市の最大震度3）  
＜市長＞地震が発生した時は、私は自宅にいた。お正月で帰省してきていた家族は年末に戻っており、久しぶりに誰もいないゆっくりとできるような正月だった。最初の揺れがあった時は、またちょっと大きな地震があったなど。令和5年5月の地震のこともあり、また珠洲の方かなと心配していた。
- 16:10 地震発生（M7.6、最大震度7・七尾市の最大震度6強）  
＜市長＞2回目の大きな地震があって、壁掛けのテレビも落ち、家具も倒れ、なかなか揺れが収まらない状況だった。これはただ事じゃないと思い、まずは身を守った。
- 16:12 地震発生（M5.7、最大震度6弱・七尾市の最大震度5弱）※以降も地震が相次ぐ  
津波警報 発令（石川県加賀、石川県能登）
- 16:22 大津波警報に切り替え（石川県能登）  
＜市長＞ある程度揺れが収まったため外に出ると、大津波警報が出たこともあり、家のすぐ裏にある小丸山城址公園の高台の方にみんな登っていくような状況であった。大勢の避難者が歩いていたが、家の屋根の下を歩いている方も多数おり、余震が起きた際に瓦が落ちることも考えられたため、できるだけ真ん中歩くよう誘導し、ある程度の方の避難を見届けたあと、私は市役所に向かった。
- 16:30 七尾市災対本部設置  
避難所を開設  
＜市長＞市役所に着くと防災部門の担当者が4～5人ぐらい来ていたが、職員も被災された方やお正月で遠方に行っている方もおり、そんなに多くの職員は集まらず、当日の職員の参集状況は3割程度であった。翌日は参集者がもう少し増えている状況であった。
- 七尾港に津波の第一波到達
- 16:37 幹部職員を集めて対策会議  
18:00頃 ＜市長＞市役所内で幹部職員と集まり情報交換したのは18時頃で、その時はテレビ等で入ってくる情報程度、それに国、県からの情報で、知り得る範囲で情報共有する形だった。冬場の夕暮れ時で、道路状況も分からなかったため、被害状況の確認をするのは翌朝行くように指示した。  
あと、県知事からも連絡があり、他自治体の首長からも連絡があって、状況を説明しながら、人的、物資の支援をお願いした。
- 七尾港に津波の最大波到達 54cm
- 18:59 ＜市長＞小丸山城址公園には市民が避難していたが、屋外で冬場の夕方ということもあり、これから寒くなるため状況を見て避難所の方に移動してもらう必要があった。そのため避難所の状況など色々情報を集めたが、なかなか細かな情報が入ってこなかった。
- 20:30 大津波警報から津波警報に切り替え（石川県能登）

##### 1月2日（火）

- 1:15 津波注意報に切り替え（石川県加賀、石川県能登）
- 10:00 津波注意報解除
- 11:00 第1回七尾市災害対策会議

死者5人・市内全域で断水などの情報が集約される

＜市長＞道路の大規模な寸断などもあり、奥能登である輪島はかなり情報収集に時間がかかったようだが、七尾市では地震の翌日には情報がかなり入ってきて、特に混乱するような状況ではなかった。七尾市は道路が一部寸断されて通りにくいところはあったが、早い段階で状況の把握はある程度できた。



能登島と結ぶツインブリッジ（中能登農道橋）の被災状況（写真・七尾市提供）



能登島の護岸の被災状況（写真・七尾市提供）

＜市長＞市内の病院では透析患者を抱えており、そのために大量の水が必要であった。水が確保できなければ患者を金沢方面の医療機関に搬送しなければならなかつたが、ギリギリのタイミングで、自衛隊の船で海水を真水に変える船があつて、そこから給水をしていただき患者の搬送には至らなかつたことが幸いであった。

### 1月3日（水）

＜市長＞市役所の災害対応マニュアルでは、いろんな業務の体制が、部署ごとに決まつていが、物資受入れや避難所運営などで人員が全然足りず、臨機応変に他の部署の職員も人員が必要な業務に応援に回つもらつた。

支援物資もかなり早い段階から届いたが、それをいかに避難されている被災者の方に届けるかというところが大変で、人員が不足しており全避難所に運ぶことができなかつた。

#### 15:00 第2回七尾市災害対策本部会議

＜市長＞断水のため、全国各地から七尾市に給水車が来てくれた。最初はタンクに水を入れた状態で来るが、タンクが空になると、また水を入れないといけない。でも、この辺りはもう水が出るところもないで、県内の離れた地域などで水を汲み、持ってくるような活動をしていただいた。

その活動に名古屋市は上下水道局だけでも 2,200 人ほどの支援を、資材や機材も全部持参し

準備していただいた。

上水道だけ通っても下水道が直らなければ排水できず、上下一体となって連携取りながら順次解消できたことは非常にありがたく組織的に動いているという感じだった。県水の部分を基本的に名古屋市などにお願いして、自己水部分は七尾市の職員が対応するという形で連携しながら行った。



上下水道の工事の様子・七尾市内（写真・七尾市提供）

1月4日（木）

＜市長＞この日は冷え込んだが、電気が通っていたのでコミュニティセンターなどの避難所では割と暖を取れたと思う。小学校の体育館とかに避難されてる方は体育館自体にはそういう暖を取るようなところがなく、備蓄のファンヒーターや暖房器具を持ち寄って暖を取っていたと思う。

12月27日（金）

「七尾市戦略的復興プラン」を公表

＜市長＞

こういう災害があった時には、タイムテーブルまでは行かなくても、今後こういうことが必要になる、こういうことをやらないといけないということを市民にしっかりと見せ、伝えることが大事だと思っている。

そのため、市民や事業者にとってその先に夢や希望が持てるような、プランを作らないといけないという思いを持って復興プランを提示した。

最後になるが、今回の地震の際は、今後どうしていくかということが、（職員の中から）出てこなかつたことが残念であった。

それは根本的には、やはり自分に降りかからないと対岸の火事で、他人事として捉えてしまう。だから（過去のほかの地域の災害の時に）そこまで真剣に考えることがなかった。職員にはそこは他人事ととらえず行動して欲しいと思っている。

これまで災害が起きていないような地域でも、（他の地域で大きな災害が起きた時には）そういうことを考えていいってもらわないといけないと強く感じた。

## 1 穴水町長からのメッセージ

穴水町長 吉村 光輝

### ●首長は被災者に「顔を見せる」

トップは「顔を見せる」ことが重要だ。被災者の話を聞くシチュエーションを作ることが必要。面と向かうことに、何を言われるのか…と最初はちょっと不安も感じたが、足を踏み入れ矢面に立つことで、役に立つ情報も得られるし、町民側もわかってもらえる実感を持て、その後の大きな力になる。

### ●初動で「体裁を整える」ことも大事

地震発生3日目、総務省・総括支援チームとして静岡県から4人の応援が来た。危機管理部署の人たちで「町長の指揮下に入ったので何でも言ってください。まず体裁を整えましょう」と言ってくれた。庁舎3階の会議室に作った災害対策本部内の配置、応援を含め各部署・機関の座る場所が決まった。それまで縦横無尽に本部内に出入りしていた報道関係者はシャットアウトにし、取材窓口は1階に設置した。

### ●避難所の食料 「地元スーパーの食材を引き受ける」民間の力も活用

町の備蓄だけでは足りないのは明らかで、町内のスーパーに「店が開けられないなら、町で食料を引き受ける」ともちかけて買った。事前に決めていたわけではないが、食料がある場所が他に思いつかなかった。チェーン店は従業員を通じ本部に打診してもらった。誰がどこで働いているか? 小さい街だからたどることが出来た。

### ●「つながっていた」災害ボランティア団体 避難所のクオリティを向上

2007年地震の時のつながりがあり、3日目に災害ボランティア団体が来てくれた。避難所運営でかなりの力になった。ノウハウがあって、交通整理ができる、見極める力も。

避難所のトイレの使い方についても、避難者への説明を担ってくれた。町の職員では知識がなく、手が回らないところをカバーしてもらった。避難所のクオリティ向上に役立った。

災害ボランティア団体とは平常時から連携を取り、いざ災害が起きたら最初から関わってもらう仕組みが必要。

### ●SNSも活用 X（旧ツイッター）穴水町公式を立ち上げ

土砂崩れで町のサーバーがダウンし、ホームページの更新が出来なかった。「X（旧ツイッター）を早急に立ち上げろ 能登半島地震に特化したアカウントを作れ 1日に何回も情報を出し続ける」と指示した。町の外にも情報発信しないといけないと思った。県の災害対策本部員会議での発言も毎回載せた。

### ●「検証あっての防災」 そしてコミュニティの維持

次の災害に備え、復興計画の中で「災害に強いまちづくり」を柱にあげた。「検証あっての防災」と思っている。足らなかつたものは何か? これから備えるべきは何か? 全部町がやるのか? 民間に協力してもらうか?など 色々なことを積み重ねて次の災害に備える。そして今回痛感したのは、最大の防災・被災者支援はコミュニティの維持だ。

## 2 災害の概要

※能登半島地震の全体像は2～3頁参照

【穴水町大町の震度】（気象庁発表）

1月1日 16:06 震度3

1月1日 16:10 震度6強

穴水町大町 2024年 震度別回数 （気象庁 震度データベースで検索）

震度6強：1回、震度5強：3回、震度5弱：1回、震度4：8回、震度1以上：累計516回

## 3 被害の状況

【人的被害】 死者46名（うち関連死26名）

【住家被害】 全壊496棟、大規模半壊・半壊1,436棟

【避難状況】 最大避難所の開設：54か所

最大避難者数：3,991名 ※町人口の57%

【道路被害】 最大通行止め：20路線

【ライフライン等】 全域停電（復旧 1月28日）

全域断水（復旧 3月1日）

下水道：全域使用不可（復旧 1月20日）

電話：全域不通（復旧 2月9日）

のと鉄道：全線運休（一部開通 2月15日 全線開通 4月6日）

※被害状況 穴水町提供（2025年2月末現在）



写真1 商店街周辺の被害



写真2 由比ヶ丘地区の土砂崩れ 12人死亡



写真3 穴水駅前 2024年3月



写真4 写真3と同じ場所 2025年2月

1年後 被災建物は解体され空き地に 左の電柱は傾いたまま

※写真1、2 穴水町提供

#### 4 災害の時系列

1月1日（月）

16:10

地震発生

☆ 地震発生時 穴水町役場には日直2名のみ

☆ 1日夜に出勤できた職員は約40人 うち6人は避難所開設に向かった

（当時の穴水町全職員数は93人）

<町長>自宅で家族とゆっくりしていた。私と妻はリビング、中学生と小学生の子どもは2階にいた。大きな揺れで家の中はめちゃくちゃに。ここにいてはダメだと思い、家族を外に連れ出した。電動シャッターを手動に切り替えて開け、自分の車で役場に向かった。

家を出る前に知事に電話をして状況を伝えた。知事は「今から石川に向かう」と。2・3分車で走ると、土砂崩れで道路が塞がっていた。これまでより規模が大きい感じがし、もう一度知事に電話して「自衛隊を呼んでください」と伝えた。知事は「もう自衛隊は心配しないで」と。車を降りて土砂崩れをまわりこみ、知り合いの息子の車で役場に送ってもらった。

16:45

石川県 自衛隊災害派遣要請

<町長>役場に着いて、1階の災害対応部署（環境安全課）に行くと、先に着いた職員7、8人が対応を始めていた。防災無線がまだ使えた。大津波警報が出ていたので「避難の呼びかけを放送し続けよう」と言った。

すでに被災者らしき人もいた。避難してくる人の対応は日直の職員にお願いした。「3階に災害対策本部を設けよう」とすぐに決めた。会議室にホワイトボードや椅子を配置して、本部を立ち上げた。しばらくして県から災害対策本部の設置を確認する電話があった。「いまの時刻（電話を受けた時刻）で良い」と答えたら、県内で遅い方になってしまった…

17:45

穴水町 災害対策本部設置 （石川県資料より）

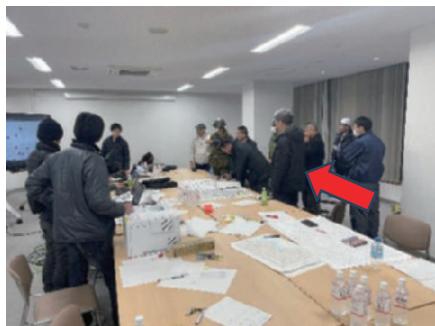


写真5 1日夜の災害対策本部

総立ちでの対応（赤矢印は町長）

自衛隊の先遣隊は到着している

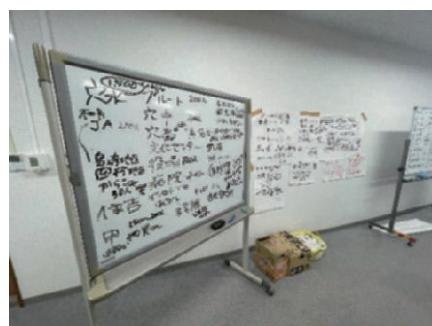


写真6 ネットワークが使えず

情報整理はホワイトボードに手書き

※写真5、6 穴水町提供

1月2日（火）

☆ 自衛隊・石川県警の救助部隊到着、石川県リエゾン派遣到着

☆ 全指定避難所を開設

☆ 2日に出勤できた職員は約30人 うち8人は避難所へ

<町長>応援に来てもらった人を含め、すべて災害対策本部にいてもらうしかなかった。それ以外の場所は用意できなかった。マスコミも縦横無尽に入っていた。当初は常に本部会議をやっているような状態。その後、毎朝8時からやる形になった。県の会議にはリモート参加したが、3日を過ぎると通信状況が悪くなつた。携帯基地局の非常電源切れか。

衛星電話が配備されたのは1週間後ぐらい。

16:30 石川県 第4回災害対策本部員会議 資料より

人的被害 穴水町 死者2人 重傷5人 軽傷23人（詳細確認中）

避難所開設 穴水町 44か所 3,206人

### 1月3日（水）

1:00 プッシュ型支援物資 到着

<町長>食料は町の備蓄だけでは追いつかず、1日夜から県に何度も問い合わせをした。「いま出た」と言われたあと、10数時間経ってもトラックが着かなかつた。ようやく届いたのは菓子パン。「穴水に5千個置いていく」と約束してもらつたが、実際には2万個置いていった。穴水から奥の自治体に大きなトラックでは行けなかつたためだ。どうしよう…と思っていたら、奥の自治体から小さなトラックで取りに来てくれた。

<町長>町内のスーパーには「店が開けられないなら、町で食料を引き受ける」ともちかけて買い取つた。事前に決めていたわけではないが、食料があるところが他に思いつかなかつた。地元直営だけでなく、チェーン店は従業員を通じて本部に打診してもらつた。誰がどこの店で働いているか？ 小さい街だからたどることが出来た。

☆ 内閣府防災、経済産業省、国土交通省 到着

☆ 総務省・総括支援チームとして静岡県 到着

<町長>静岡県から最初4人が來た。危機管理部署の人。正直、総括支援といつても何をしてもらえば良いのか？職員も私もあまり理解しておらず戸惑いもあつた。向こうから「町長の指揮下に入ったので何でも言ってください。まず体裁を整えましょう」と言ってくれた。災害対策本部内の配置、応援含め各部署・機関の座る場所が決まり、報道はシャットアウトになつた。

静岡県に続き、対口支援で栃木県・奈良県・福岡県から対口支援チームが入ってくれた。こちらの要望を聞きながら、次に何が起きるか？何に人が必要か？想定してくれた。被災調査、罹災証明、生活再建手続きなど先手・先手でやっていけた。



写真7 穴水町 災害対策本部会議  
赤矢印が町長 後ろに自衛隊



写真8 応援職員が被災者対応を担当  
※写真7、8 穴水町提供

☆ボランティア団体 認定NPO法人 レスキューストックヤード（RSY）穴水入り<町長>ボランティアというと「次のステップ」のイメージがあるが、2007年地震のつながりで、いち早くかけつけてくれた。当初の避難所運営でかなりの力になった。ノウハウがあって、交通整理ができる、見極める力も。

避難所のトイレの使い方でも、避難者への説明を担ってくれた。町の職員では知識がなく、手が回らないところをカバーしてもらった。避難所のクオリティ向上に役立った。

災害ボランティア団体とは平常時から連携を取って、いざ災害が起きたら最初から関わってもらう仕組みが必要だ。



写真9 避難所で炊き出しの提供



写真10 避難者向けトイレの使い方講習会  
「新聞紙と凝固剤を使ってキレイに」  
※写真9、10 RSYホームページより

被災者支援については、発災初期から 町・社会福祉協議会・RSYで定期的な「三者協議」を実施。2025年3月現在も隔週で継続。

### 1月4日（木）

被災家屋調査 開始

### 1月6日（土）

☆ X（旧ツイッター）【能登半島地震】穴水町公式 情報発信開始  
<町長>町役場近くの土砂崩れでサーバーがダウンし、町のホームページの更新が出来なかった。X（旧ツイッター）は東日本大震災で力を発揮していたので「早急に立ち上げろ 能登半島地震に特化したアカウントを作れ 1日に何回も情報を出し続けろ」と指示した。当初は自分で発信してみようと思ったが、とてもやりきれなかった。会計課が支援金配布でXの利用を考えていたので、地震の公式Xの担当をしてもらった。町の外にも情報発信しないといけないと思った。県の災害対策本部員会議での発言も毎回載せた。Xとは別に紙媒体も使った。半月に1回、通常月1回の広報誌の臨時版も出した。



写真 11  
穴水町役場前で土砂崩れ  
※写真 11、12 穴水町提供



写真 12  
役場サーバー室に土砂流入



写真 13  
穴水町 能登半島地震 公式 X 画面より

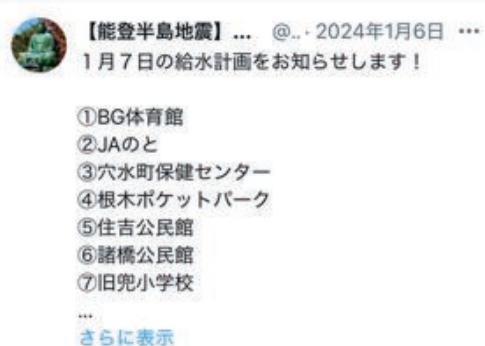


写真 14  
同 1月 6 日発信「翌日の給水計画」

## 1月 7 日 (日)

☆ 国土交通省より携帯トイレ 3,500 個が届く  
<町長>町としてトイレ備蓄はなかった。簡易トイレも仮設トイレも。仮設トイレは経済産業省にお願いした。テレビの取材で「トイレ危機」を訴えたら、全国からも携帯トイレの支援物資が集まった。

## 1月 10 日 (水)

社会福祉協議会内にボランティアセンター開設

## 1月 11 日 (木)

家庭ゴミ 収集再開

## 1月 13 日 (土)

<町長>地震発生直後に登庁して、何日かして家に物を取りにいったが、また役場に戻っていた。過労と発熱により 13 日に入院して初めてベッドの布団で寝た。インフルエンザと言われた。

## 1月 15 日 (月)

応急仮設住宅 受付開始

## 1月18日（木）

災害ゴミ あすなろ広場（穴水港の緑地広場）で受け入れ開始

## 1月28日（日）

★町長 避難所訪問・被災者との直接対話 開始

<町長> 1月下旬から避難所と自治会長宅などの訪問を始めた。スケジュール調整して、この日は行くと決めて、道路渋滞で一度出ると戻ってくるのに時間がかかった。町の中心部は歩いても行けるけど、少し離れたところは午前中1か所だけの時も。

トップは顔を見せることが重要だ。話を聞くシチュエーションを作ることが必要。被災者と面と向かうことに、何を言われるのか？と最初はちょっと不安も感じたが、足を踏み入れ矢面に立つことで役に立つ情報も得られるし、町民の方もわかってもらえる実感を持って、その後の大きな力になる。

## 5月6日（月）

対口支援 終了式

<町長> 対口支援のおかげもあり、上水道が当初の予定より1カ月前倒しで復旧し、終了式を行うことができた。上水道の復旧により自衛隊も一番早く撤収できた。被害の報道は輪島市や珠洲市に注目しがちであったが、復旧について少し意識し「先に先に」やることでニュースになった。

## 12月24日（火）

「令和6年 能登半島地震 穴水町復興計画」策定

<町長> 次の災害に備えて、復興計画の中で「災害に強いまちづくり」を柱にあげた。「検証あっての防災」と思っている。足らなかったものは何か？ これから備えるべきは何か？ 全部町がやるのか？ 民間に協力してもらうか？など 色々なことを積み重ねて次の災害に備える。そして今回痛感したのは、最大の防災・被災者支援はコミュニティの維持だ。



## 1 志賀町長からのメッセージ

志賀町長 稲岡 健太郎

### ●地震発生は町長就任 8 日目

地震が発生したのは、町長に就任して 8 日目。前年の 12 月 24 日に町長選があり、翌 25 日が初登庁。それから知事や 18 市町の首長さんたちに挨拶回りをして 28 日に仕事納め。ほぼ業務をしないまま地震が起きたため、日頃の町長としての心構えの余裕すらなかった。1 年経った今では、気象条件や町内の情報、河川の状況など、様々な状況に常に気を配るようにしている。

### ●災害に対する意識が低かった

2007 年に能登半島地震があり、震度 6 弱で今回と同じ自宅で被災した。本町はこれまで能登中核工業団地への企業誘致を進めていたが、謳い文句が「災害が少ない能登」だった。自然災害が少ないという意識が能登全体に蔓延していたように思う。当時、被害が酷かった旧門前町（現輪島市）は隣町であった。この時は本町も被害があったのだが、災害に対する意識は低かったように思う。

### ●発災後の登庁

発災時は自宅にいた。家族の何人かは机の下に潜り、家の中は天井や壁が崩壊していた。自宅は築約 100 年なので、躯体は残っていたが、中規模半壊だった。車で登庁途中、道路には亀裂が複数あり、車両が何台もパンクして動けないのを横目に本庁へ向かった。橋が落ちたり、電柱が傾いたりしていたため、う回路、う回路で普段 15 分のところを 1 時間かけて登庁した。

### ●原発の安全性と大津波からの避難情報が最優先事項

まず、状況確認。職員の参集率が比較的高く、最終的には 60% を超えた。災害対策本部を立ち上げ、防災担当の環境安全課長と今後について話し合った。知事に連絡し、自衛隊の派遣を要請した。大津波警報が出ていたため、津波の情報収集。午後 6 時過ぎに課長級以上で第 1 回災害対策本部会議を開き、環境安全課から「志賀原発異常なし」の報告があった。それから端末で大津波からの高台避難を呼びかけた。津波による人的被害はなかつたが、床上浸水が数件あった。志賀原発の安全確認と大津波対策が当初の最優先事項だった。第 1 回災対本部に消防署長も出ていたが、要救助者の把握はできていなかった。地震による直接死は、2 日目か 3 日目に報告があった倒壊家屋の下敷きになった 1 人だった。（後にもう 1 人が追加された）

### ●断水への対応と避難所の運営に苦労した

最初の 1 か月で苦労したことは、断水への対応と避難所の運営。避難所は指定、自主合わせて 60 か所以上。発災当初は何とか全避難所に職員を張り付けようとしたが、町職員は病院以外で 260 人しかいないため、避難所運営に全く足りなかった。その後、総括支援として愛知県の職員約 30 人が週替わりで来てくれ、非常に助かった。断水は横浜市水道局を中心尽力いただき、3 月 2 日に解消した。総括支援、対口支援は有難かった。給水車も全国の自治体から来ていただいた。避難所の物資の捌きは鳥取県、岡山市にお願いした。トイレは 1 月 2 日にレンタルで 60 基確保した。広域避難は輪島市などと違って少なかった。停電は 1 地区 300 戸であったが 3 日間で解

消した。12か所の原子力防護施設があり、アルファ米やパンなど3日分の備蓄があったが、一瞬で枯渇した。プロのボランティアの人たちに早くから来ていただいたが、こちらの受け入れ態勢が出来ていなかったため、社会福祉協議会に頼んだが、そこも準備が出来ていなかった。1月22日にやっとボランティアセンターを1か所立ち上げた。

### ●情報発信について再考しなければならない

住民への情報発信について。原発関係の補助金で、全戸にケーブルテレビを設置し、そのケーブル回線を利用したIP音声告知端末を備え、放送が鳴る仕組みがあったが、4、5年前に端末を撤去し、新たな手段に変えた。それが防災行政無線と連携した個人が持つ端末（LINEや音声伝達）に情報を送る情報多重化システム。しかし、高齢化率47%の本町では、お年寄りにはなかなか受け入れられない。登録数はほぼ全戸にのぼるが、タイムラグがある受信方法の人もあり、今回の地震情報に必ずしも有効でなかったとの反省がある。個別受信機以外の考える手段として、ケーブルテレビの文字放送、電話、FAX、個別の携帯電話、すべてに情報が行くようにしていたが、情報は、結局、取りに行く人には伝わるが、取りに行かない人には伝わらない。難しい問題だ。

### ●被災格差をなくしてほしい

被災格差によって支援の差が顕著にある。国などの支援より、報道格差が問題。それによって支援の格差が生まれる。

### ●「かえる、志賀町」をモットーに

復興に於いて、目指したい町の姿を「かえる、志賀町」「人が帰る 元に返る 町を変える」とした。被災市町の中では一番早かった。まず町としての考え方を町民に示す形にし、そこに住民の意見を入れていく方針とした。その後住民からの意見を聞く会を開いたが、意外に参加者が少なく、もっと多くの住民のご意見を伺いたいと感じた。

災害公営住宅の用地設定は難しい。当初は町有地の中から選んで進めようとしたが、議会の反対で白紙になった。公費解体が進んで空き地が増えてくると、みなさんから、自分の思った所に建ててほしい、と言われる。そのとりまとめがやはり難しい。仮設住宅を393戸建て、そこから災害公営住宅にどれくらい入るのかアンケートを取って調べている。仮設住宅から災害公営住宅に入られる町民の人数は、試算すると200人くらいだが、町外に出ている人の考えはわからない。住宅の形も、町の人たちは一戸建てを望んでいる。スピード重視ではなく、じっくりと進める。

### ●今後、心のケアが必要

災害対策本部会議では早くから「ゼロを目指す」としていたが、災害関連死は18人（4月1日現在）。仮設住宅への支援などは出来る限りやってきたが、高齢化率が高いため、持病がある方も多く、これからは心のケアが一層、必要になってくると思う。

### ●災害は常に隣り合わせ

1年生町長として、偉そうなことは言えないが、災害は常に隣り合わせということ。昨年9月の豪雨では、わが町の被害は出なかつたが、今後は水害も気を付けなければならない。「常在被災地」という言葉を常に頭に浮かべている。

## 2 災害の概要

志賀町では、最大震度 7 の本震と度重なる強い余震により、当初は直接死が 1 人出たが、後にもう 1 人が追加認定された。地盤の緩みや地割れ、上水道の断水、土砂災害などが広範囲にわたり発生した。

これらの被害により、住家を失い、避難所や仮設住宅での暮らしを余儀なくされている住民が令和 6 年 6 月末現在で約 400 世帯に上った。このほか町外に避難している町民も多く見られた。地盤の変形により営農活動を断念する農家も相次ぎ、地震が日常生活や経済活動に与えた影響は甚大なものとなった。



① 富来地頭町（富来川護岸）



② 富来領家町地内



③ みらいとうぶ



④ 矢田 作業場

(写真①～④ 志賀町提供)

## 3 被害の状況

**【人的被害】** 死者 20 人（うち災害関連死 18 人）、重傷 19 人、

軽傷 97 人（うち、富来病院からの搬送者 46 人、程度不明含む）（令和 7 年 4 月 1 日時点）

**【住家被害】** 全壊 563 棟、半壊 2,475 棟、一部損壊 4,915 棟（令和 7 年 3 月 26 日時点）

**【断水】** 令和 6 年 3 月 2 日 すべての上水道区で通水が完了

**【避難状況】** 指定避難所開設 19 か所、最大避難者約 2,600 人（他に、車中避難者等あり）  
(10 月 18 日全ての指定避難所を閉鎖)

※被害の状況 志賀町提供

#### 4 災害の時系列

##### 1月1日（月）

- 16:10 震度7の地震発生  
大津波警報  
災害対策本部を立ち上げ  
<町長>知事に連絡し、自衛隊の派遣を要請  
避難所開設  
<町長>被害状況に関する情報収集を全課に指示  
町内のほぼ全域で断水
- 16:45 道路パトロール開始
- 18:00 第1回災害対策本部会議  
<町長>リース会社に、避難所へ配置する仮設トイレの確保を要請

##### 1月2日（火）

- 自衛隊、内閣府からのリエゾン到着  
<町長>県の災害対策本部会議で、避難所への物資と人的支援を国へ要請  
指定避難所への仮設トイレ設置開始
- 9:00 第2回災害対策本部会議
- 18:00 第3回災害対策本部会議

##### 1月3日（水）

- 環境省からリエゾン到着
- 9:00 アクアパークシ・オン、富来支所の2か所で給水車による給水  
<町長> 民間企業（A社）に循環型水道設備（手洗い、温水シャワー）を要請
- 11:00 第4回災害対策本部会議  
<町長>民間企業（B社）よりヘリコプターによるパン提供の申し出を受け、着陸可能な空港を国交省と調整
- 14:00 愛知県からリエゾン到着
- 20:00 第5回災害対策本部会議

##### 1月4日（木）

- TEC-FORCE 到着  
<町長>災害復旧は長丁場になるため適宜休みを取るように職員へ指示  
県による被災建築物応急危険度判定調査の実施（一部地区のみ）  
<町長>自衛隊に入浴支援を要請  
学校給食調理場で炊き出し（おにぎり）  
富来病院外来診療開始（内科・整形外科のみ）  
指定避難所巡回診療 指定避難所に看護師・看護助手を派遣  
インフルエンザ・コロナ感染者ゾーニング受入れ開始（富来活性化センター）
- 19:00 第6回災害対策本部会議

## 1月5日（金）

アクアパークシ・オンの浴場を無料開放

9:00 文化ホール、中核工業団地コミュニティ施設、富来支所での給水開始

18:00 第7回災害対策本部会議

## 1月6日（土）

16:10 日本水道協会 関東地方支部（東京都、横浜市）の水道局職員による現地調査開始

17:30 第8回災害対策本部会議

## 1月7日（日）

罹災証明書の申請受付開始

義援金の受付開始

賃貸型応急住宅の受付開始（民間対応）

15:00 第9回災害対策本部会議

## 1月8日（月）

自衛隊による仮設入浴場の設置（B & G フレア前）

1.5次避難所への避難支援開始

福祉避難所の開設

14:00 第10回災害対策本部会議

## 1月9日（火）

災害ボランティアセンターの開設

14:00 第11回災害対策本部会議

## 1月10日（水）

自衛隊による仮設入浴場の設置（熊野交流センター）

感染症対策避難所（シーサイドヴィラ渤海）の開設

14:00 第12回災害対策本部会議

16:00 余震に伴う土砂崩れが頻発している楚和・灯、入釜、鶴野屋、地保、切留区に対し、警戒レベル4避難指示を発令

## 1月11日（木）

罹災証明書現地調査開始

医療関係派遣職員の派遣受け入れ開始

14:00 第13回災害対策本部会議

## 1月12日（金）

14:00 第14回災害対策本部会議

## 1月13日（土）

14:00 第15回災害対策本部会議

自衛隊による炊き出し（富来防災センターを拠点に実施）

避難所外避難者への調査票配布（区長を通じて）

## 1月14日（日）

14:00 第16回災害対策本部会議

富来支所にシャワーテント1基を設置

避難所に段ボールベットを設置

**1月 15 日 (月)**

- 14:00 第 17 回災害対策本部会議  
被害家屋調査の開始  
トレーラーハウス 1 基（デモ車）を富来支所に設置

**1月 16 日 (火)**

町立富来病院の外来診療再開  
避難所の夕食に弁当導入を開始

- 14:00 第 18 回災害対策本部会議

**1月 17 日 (水)**

- 9:00 災害ごみの仮置場（富来野球場）開設  
14:00 第 19 回災害対策本部会議

**1月 18 日 (木)**

- 14:00 第 20 回災害対策本部会議

**1月 19 日 (金)**

- 9:00 町民電話相談窓口の開設  
14:00 第 21 回災害対策本部会議

**1月 20 日 (土)**

給水ポイントの拡充（原則各地区に 1 か所設置）  
災害ボランティアセンターのニーズ現地調査開始

**1月 21 日 (日)**

- 14:00 第 22 回災害対策本部会議  
富来病院に医療用コンテナ、プレハブを設置

**1月 22 日 (月)**

志賀小学校・志賀中学校再開、給食も併せて再開  
高浜保育園、すばる幼稚園、志賀放課後児童クラブ再開  
各避難所に、医療機関への巡回バスを運行  
避難所外避難者への避難所への物資支給活動を開始（トヨタ自動車株とダイハツ工業株社員）  
災害時の体調チェックの実施（正職員・会計年度任用職員を対象）  
富来病院の外来診療全科再開  
感染症対策避難所（シーサイドヴィラ渤海）の閉所

**1月 23 日 (火)**

- 14:00 第 23 回災害対策本部会議

**1月 25 日 (木)**

富来小学校・富来中学校再開、給食も併せて再開  
とぎ保育園、富来放課後児童クラブ再開

- 14:00 第 24 回災害対策本部会議

**1月 26 日 (金)**

Amazon を利用した物資要請開始（ほしい物リスト登録←支援者提供）

**1月 27 日 (土)**

- 14:00 第 25 回災害対策本部会議

動物用のトレーラーハウス（10 匹まで収容可能）を富来支所に設置

**1月 28 日（日）**

8:30 知事の現地視察（富来病院、避難所他）

**1月 29 日（月）**

9:00 災害ごみの仮置場（旧志賀中学校グラウンド）の開設

14:00 第 26 回災害対策本部会議

**1月 31 日（火）**

建設型応急仮設住宅（健民富来ホッケー場 65 戸）の着工

14:00 第 27 回災害対策本部会議

## 1 村山市長からのメッセージ

金沢市長 村山 卓

### ●津波発生時はより迅速な対応が求められる

必要と考える避難所は開設できた。市役所職員だけではなく、地域の自主防災組織の方々や施設管理者との日頃からの情報共有や連携があったからこそ、うまくいったと考えている。一方で地震と同時に津波警報が発表され、多くの避難者が避難所に一斉に避難した。津波避難の想定をしていなかったことから、避難所開設前に多くの市民が殺到し、いち早く駆け付けた避難者がガラスを割るなどの混乱が生じた。車で避難する人が多くいたため渋滞が発生し、職員の参集にも影響が出た。正月であったことから、避難所を早期に開設できなかった地区も一部存在した。また、金沢駅周辺に一時的に多くの人があふれ、対処できなかった。

緊急輸送道路の橋梁等の道路施設、上下水道施設、小中学校の学校施設等や住宅・建築物の耐震化や老朽化対策を図ってきたことなどが、被害軽減につながったと考えている。液状化危険度マップなど各種防災マップを作成し、市民に周知しているが、その効果については検証中だ。上下水道については、老朽化の更新に併せて耐震化を進めていたが、未耐震の管が被災してしまった。

### ●地元住民との直接対話が復旧の推進力に

大規模な斜面崩落に伴い避難が必要となった田上新町の被災現場や液状化による甚大な被害があった粟崎地区の被害状況を自分の目で確認した。また、粟崎地区については、地元説明会にも出席し、地域の声を直接伺った。説明会に出席したことでの、住民の不安解消に繋がり、液状化対策について、早期の合意形成につながったと考えている。また、地域に対して「粟崎未来共創通信」という情報誌を発行し、復旧状況をお知らせできるようにしている。

### ●災害救助法、被災者生活再建支援法は柔軟に運用し、適用範囲の拡大を

現行の災害救助法及び被災者生活再建支援法(被災者生活再建支援制度)では半壊や準半壊、一部損壊等が制度対象外となっているものがあるが、制度対象外となった家屋でも復旧・再建に多額な費用が必要な場合も見受けられる。能登被災地は高齢化率が高く、自らの資力での復旧・再建が難しい世帯が多いこともあり、市内での再建をあきらめて市外の親族の元へ生活の拠点を移すなど、人口の流出により急激な人口減少が危惧される。円滑な被災者支援の実施のために、被災地の実情を踏まえ、家屋被害を受けた全ての被災者に対して、これらの制度を適用できるよう柔軟な運用や適用範囲の拡大を行うことを要望する。

食事は、災害救助法で現物支給を基本としているが、能登被災地から食事提供のない宿泊施設に二次避難されている方に対し、食事等に使えるプリペイドカードを配付した。現物支給以外に対象を拡大する等、災害救助法の柔軟な運用をしてほしい。

### ●迅速な決断がトップの責任。危機管理能力を高めることが大切

令和4年の市長就任時に総務省消防庁の研修を受け、災害対応について、首長の心構えや役割について学んだ。地震はいつ発生するか分からないことから、日頃から地域防災計画を継続的・定期的に見直し、それに基づく防災対策を行うとともに、職員の防災訓練や地域と協働で実施する市民防災訓練の重要性を再認識し、取り組

んでいる。

自分の目で現場を確認し、躊躇なく決断することがトップである市長の責任であると考える。また、防災訓練等、日頃から取り組んでいることしか本番でできないことから、トップ自らが訓練に参加するなど、危機管理能力を身につけることが大切である。

## 2 災害の概要

発 生：2024年1月1日 16:10

震 源：石川県能登地方

規 模：マグニチュード 7.6

震 度：金沢市 5強

## 3 被害の状況

【人的被害】 死者なし（帰省先の能登で死者あり）、重傷者9名

【住家被害】 全壊 55棟、半壊 411棟、一部破損 15,694棟（令和6年12月31日現在）

【避難状況】 避難所の開設：指定避難所 124カ所

最大避難者数：10,259人（1月1日午後9時30分時点）

【道路の被害】 3,049件（うち路面陥没、ひび割れ 2,528件）

【河川の被害】 101件

【その他被害】 崖地被害 総数 259件（崩土、ひび割れ）

水道被害 断水件数 約1,100戸（11地区）

下水道被害 市内全域 被害延長 約36km（追加査定分は集計中）

※被害状況 金沢市提供（令和6年12月31日現在）

## 4 災害の時系列

### 1月1日（月）

16:10 能登半島地震発生／災害対策本部設置

＜市長＞当日午前は、年賀状の配達出発式に出席した。その後、市内の数箇所で初詣に行き、夕方、家族とともに県内の山中温泉にいた。ちょうど、ホテルのチェックインを済ませ、部屋で荷ほどきをしていたときに地震が起きた。感覚として、緊急地震情報から揺れ始めるまであまり時間はなかったように感じた。揺れている間、正月から大変な事態になったと思った。少し長い時間の揺れだったので、相当大規模な地震があったのではと考え、金沢市の被災状況をなるべく早く知りたいと感じた。日暮れが近かったので、状況把握が困難になると思った。揺れが収まった後、すぐに、秘書課長に連絡した。津波警報が出ていたため、海側ではなく山側の幹線道路を通って金沢に向かった。金沢市内に入ったあたりで渋滞が発生していたため、多くの人が避難してきたと思った。

金沢市は観測史上初めて震度5強を記録し、誰も経験したことのない状況であった。年末年始の休業期間でもあったが、災害に対する日頃からの意識付けや訓練を実施していたことから、多くの職員が速やかに駆けつけてくれた。庁舎内は、天井パネルが落ちるなどの被害があった。

18:00 第1回災害対策本部会議

被害状況、開設した避難所、避難者数の確認、応急復旧の実施状況などを情報共有し、人命救助を最優先に初動対応にあたることについて意思統一した。

＜市長＞人命救助と緊急時の対処体制の早期確立を優先することとし、「被災状況の把握、情報の集約・一元化」「人命救助・救出、消火、避難誘導・収容、医療救護体制の確立」

「緊急交通路の確保」「県に対する広域応援部隊等の派遣及び緊急物資等の支援要請の準備」「市民に対する適時的情報提供」を重点事項として指示した。

22:00 第2回災害対策本部会議

被害状況や避難所状況の確認を行うとともに、各防災対策班の初動活動状況や今後の活動予定について共有した。

＜市長＞発生当日の第1回災対会議にて市内の被害状況を確認したが、夕方の発生ということもあり、集計中や確認中のものもあった。時間経過とともに情報量が増え、概要を把握することができてきた。大災害では一番重要な情報収集・把握に時間を要することを実感した。2日朝、明るくなってから状況が把握できた。第2回災対会議終了後に帰宅し、2日の朝は自宅で迎えた。

## 1月2日（火）

10:00 第3回災害対策本部会議

災害対応状況を共有するとともに、能登被災地への応援体制を確認した。

＜市長＞石川県内市災害時相互応援協定を10市と、災害応援協定を2町と締結しており、有事の際は相互に協力し、被災市町に人的・物的支援を行うことにしており。

13:00 田上新町被災現場視察

崖地崩落に伴い避難が必要となった被災地現場を視察した。

16:00 第4回災害対策本部会議

＜市長＞まずは被災状況の把握が特に重要であることから、2日夕方まで計4回の会議を開催し、状況の把握に努めた。4回目の会議まで、市内の被害状況は概ね把握できたことから、甚大な被害を受けた能登被災地への支援を指示した。



（金沢市提供）

## 1月3日（水）

16:00 第5回災害対策本部会議

## 1月4日（木）

9:00 第6回災害対策本部会議

＜市長＞市民に向けて、年頭記者会見で、被害状況やその対応状況を報告し、一日も早い災害復旧と被災された方の生活再建に向けて全力で取り組んでいくメッセージを発信した。また、

職員向けにも、職員全員が一丸となって、金沢のため、市民の皆さんのために対応していくことをお願いした。

石川県知事と市町長のオンライン会議を行い、災害対応状況を共有した。県都金沢として、能登被災地の復旧・復興を支援しなければいけないと考え、能登被災地支援本部を設置し、被災地域への物資支援、被災地域からの避難者受入れのほか、伝統工芸や生業への支援に関連予算を確保し、さまざまな支援を実施した。

#### 1月6日（土）

##### 第7回災害対策本部会議の開催

志賀町避難所運営サポート、生活物資支援班活動、避難住民受入班の活動などを共有した。

#### 1月10日（水）

＜市長＞能登被災者受入本部を設置するとともに、金沢市営額谷ふれあい体育館など計6箇所の避難所で、輪島市から300人を超える避難者を受け入れ、24時間体制で食事・物資の提供や相談、医療、介護ケアなど総合的な支援を開始した。市内の被災現場や額谷ふれあい体育館など避難所を訪問し、現場の状況や被災者の声を直接聞くことで、刻々と変化するニーズの把握に努めた。



（金沢市提供）

#### 1月20日（土）

液状化による甚大な被害があった粟崎地区の被害状況を確認した。

#### 2月12日（月）

第1回粟崎地区住民説明会（18日に第2回粟崎地区住民説明会）

#### 3月30日（土）

公費解体に関する粟崎地区住民説明会

## 1 酒田市長からのメッセージ

酒田市長 矢口 明子

### ●訓練のたまもの

かつては酒田大火などがあったが、近年の酒田は大きな災害がなかった。それでも海側の地域や離島は津波の避難訓練、山側は土砂災害を想定した訓練をしてきた。今回、避難の途中だったお1人が亡くなったのは痛恨の極みだが、多くの市民が2階に垂直避難したり、早めに避難所に移ったりしたと聞いている。近所の声かけもあり、日頃の訓練のたまものだと思う。流された家屋が少なかったという面はあったとしても、多くの人に適切な避難行動を取っていただいたと考えている。

市の対応も、年に2回実施してきた防災訓練のたまものだった。市では、夏に庁内で、秋には市全体を対象とした実動による総合防災訓練を行っていた。当日は市民からの通報が相次ぎ、市役所4階の庁議室にある3台の電話が鳴りっぱなしだった。こうした事態を想定して「防災対応の中核となる危機管理課に電話を取らせてはいけない」という考え方のもと、事前に「情報班」をつくり、各部署から人員を出してもらって対応に当たる職員を決めていた。庁舎近くに住んでいて登庁しやすい職員などを充てていた。また、アプリを活用して災害情報整理簿（クロノロジー）を逐次更新し、被災状況等を迅速に全職員間で共有した。市の地域防災計画にもこうした役割分担を明記していたことは大きかったし、そのおかげで慌てることはなかった。やはり、日頃の訓練は大切を感じた。

### ●河川の水位、翌日に上がる

7月25日13時05分、大雨特別警報が出た。20時10分に大雨特別警報が警報に切り替わったが、そのことで安心したという記憶はない。これまでの経験で、最上川流域で大雨があると、下流側の酒田市では水量は翌日に増えるということを知っていた。だから職員は26日にかけて詰めていたし、緩んだ感じは全くなかった。25日夜の段階で「これから水は増えていく」と考えていたし、警報段階では職員を帰せないと思っていた。私も市長室に泊まった。緊張感の持続があったから、23時40分に再び大雨特別警報が出ても、慌てたということはない。日付が変わって26日午前1時43分、仙台の東北地方整備局長から私に直接「午前2時50分に最上川が越水する可能性がある」という情報が入った。夜中でも躊躇なくレベル5「緊急安全確保」を出した。気象情報が緩和されても、油断は禁物ということだろう。

### ●いつもと同じと思わない

7月25日朝、山形地方気象台から市役所の危機管理監に「今日の雨はきついですよ。警報レベルになる可能性がある」と連絡があった。私が午前7時40分ごろに登庁すると、危機管理監から八幡地域などにレベル4「避難指示」を出したいと告げてきた。その後、気象庁の洪水キックルで紫の地域が市内全域に広がり、午前11時12分、市内全域に避難指示を出した。これまで避難指示を出したことはあったが、全域が対象というのは初めてで、こういう事態が来たかと思った。職員らと共有している防災連絡用アプリに、午後の早い段階で、川のそばにある八幡地域の平屋の市営住宅が浸水している写真が送られてきた。「やばい」と思っていると、八幡地域の情報が入らなくなってしまった。消防、消防団、警察等防災関係機関が地域に入れず、進めない。音信不通になり、地域が孤立した。大変な事態が起きていることも想定されたので、速やかに県に連絡し、自衛隊派遣をお願いした。

酒田に限らないが、雨の降り方が昔と違う。熱帯のようになってきた。いつもと同じと思わないことが大事だし、首長の危機感というスイッチが入るのは早い方がいい。

### ●同時多発、違うハザード

激しい雨が長時間続き、市内のさまざまな川の状況の対応に同時並行で追われた。「こんなにも注意を払わないといけない川が市内にあったのか」ということを再認識した。広い市内では地域によって災害のリスクが異なる。松山の竹田地域は内水氾濫、八幡の大沢地域は土砂災害と越水、西荒瀬地域は越水に警戒、といった具合だ。今後の話になるが、ハザードマップを改正して、今回の浸水がどこまでの範囲だったかということを反映していきたい。

### ● 首長のＳＮＳは読まれる

自分が発信する「フェイスブック」や「X（旧ツイッター）」はあったが、どちらかというと苦手だし、使いこなす感じではなかった。ただ、元日の能登半島地震で自治体首長のＳＮＳが意外と読まれていたことを知り、7月の水害ではメッセージをＳＮＳで発信するようにした。「必ず助けに行きます」という趣旨の内容も書いた。後日、被災地域の避難所で地元出身の大学生から「市長のツイッター見ていました」と声をかけられた。その学生さんは大雨のときは離れた場所にいて、状況を察していたのだが、信頼できる情報源の一つとして私の発信を見てくれていたのだろう。

#### ＜7月25日の発信例＞

- ・八幡地域の皆さん、自衛隊他の皆さんが明朝5時から活動を開始します。今晚一晩、何とか無事でいて下さい！

#### ＜7月26日の発信例＞

- ・松山地域の皆さん、一晩本当に頑張って下さいました。被害の報告を受け、今、対応しています。あと少し一緒に頑張りましょう！

#### ＜8月17日の発信例＞

- ・酒田は必ず復興します。皆で手を取り合ってこれからも頑張ってまいります。
- ・一番頑張っているのは被災した方々であることを忘れない。

### ● 忘れていませんというメッセージ

復興までは長い時間がかかる。道路や河川の復旧もそうだし、農家は本当に大変だ。発生から6日目に訪れた地域で住民から「もっと早く来い」と言わされた。危機管理監は2日目に入っているのだが、首長として「忘れていませんよ」というメッセージを伝え続けることは大事だと思う。発生から1ヶ月が経過した8月25日には、現場の橋を訪れ、亡くなられた方に追悼の花を手向けた。市の広報では繰り返し、災害のことについて言及した。「忘れていません」、その思いだけでも被災した地域に届けばと願ってきた。

### ●猛暑、熱中症や関連死を心配

8月1日に梅雨が明け、猛暑となったため、熱中症が非常に気になった。断水が1ヶ月以上続いた地域もある。避難者に、小学校の体育館から冷房施設がある避難所に移っていただいたりして災害関連死が出ないように努めた。作業をしてくださる支援者やボランティアの体調も心配だった。この地域の泥は「粘土のように重い」特徴があるそうだ。そんな泥出しや災害ごみの作業を炎天下で続けてくださった皆さんには感謝しかない。

## ●女性リーダーの育成

市役所として、女性目線の視点を入れるため、地域の女性防災リーダーを養成する講座を開いている。受講者も増えてきており、今回の水害でも災害ボラセン等で後方支援に入った受講者もいると聞いている。今後は、受講者や防災士の方が「地域防災コーディネーター」として活動できるようにしていきたい。

## 2 災害の概要

【総降雨量（7月24日00:00～7月27日24:00）】

- ・坂本（酒田市山元）410.0 mm
- ・酒田大沢（酒田市大蕨）407.5 mm
- ・酒田（酒田市亀ヶ崎）305.0 mm

【期間最大値となった1時間降水量】

- ・酒田 86 mm（7月25日09:34起時）
- ・酒田大沢 67.5 mm（7月25日12:24起時）

【期間最大値となった24時間降水量】

- ・酒田大沢 357.5 mm（7月26日04:20起時）
- ・酒田 289.0 mm（7月26日04:00起時）

【各河川と時点最高水位】

- ・最上川下流（下瀬） 7月26日06時50分 4.04m
- ・最上川下流（臼ヶ沢） 7月26日06時40分 17.99m
- ・荒瀬川 7月25日13時30分 4.74m
- ・日向川 7月25日13時40分 6.20m
- ・京田川 7月26日03時10分 5.44m
- ・相沢川 7月26日01時00分 6.89m

## 3 被害の状況

【人的被害】死者1人。7月25日10:30ごろ、自宅より避難途中に行方不明。31日に発見

【住家被害】全壊13棟、大規模半壊15棟、中規模半壊31棟、半壊182棟、床上浸水47棟、床下浸水511棟

【住民避難】最大1,752人（7月26日4時時点）、避難所開設最大63カ所

【被災河川】31河川、84カ所

【公共土木施設被害】被害額38億円。被災した市道99、落橋2

【農林関係被害】農作物、農業用機械、農業施設、農地、農道、林道など被害103億円。浸水、冠水、土砂流入、樹体被害による農作物被害は5,413ha。被災農道112カ所。被災林道95カ所

※被害状況 酒田市提供 1月末現在



① 荒瀬川の氾濫により前山橋へ続く道路が消失



② 山からの土砂・流木被害（北青沢）



③ 沢からの濁流が道路へ流入（東平田）



④ 浸水被害が大きかった竹田地区

(写真①～④ 酒田市提供)

#### 4 災害の時系列

##### 7月24日（水）

19:47 大雨注意報

〈市長〉翌日にあんな事態になるとはとても想像できなかった。注意報が出ても特に気にする感じではなかった。

##### 7月25日（木）

6:07 洪水注意報

7:30 市長宅を出る

7:40 登庁

8:15 大雨警報（土砂災害）

山形気象台より注意喚起（土砂災害警戒情報発令の恐れが大）

8:27 土砂災害警戒情報（八幡地域）

8:29 警戒レベル4【避難指示】八幡、松山、平田地域

8:35 土砂災害警戒情報（酒田、平田、松山地域）

8:40 災害対策本部設置

〈市長〉市長室や市長公室、危機管理課などがある4階には災害時迅速に指揮を発揮できるようにオープンスペースを確保し、災害時災害対策室（指揮所）として使用できるように準

備していた。

しばらくの間、関係者以外は入れないようにしたが、報道関係者が詰めかけてきたため八幡支所では分かっている最低限の情報提供はした。

8:41 大雨警報（土砂災害、浸水害）、洪水警報

9:30 第1回災害対策本部会議

11:12 警戒レベル4【避難指示】市全域に拡大

〈市長〉酒田地域で浸水被害の危険が高まったためいろいろな手段で市民への連絡をした。

自動音声による防災行政無線、LINE（ライン）、X、フェイスブック、防災ラジオ、携帯の緊急速報メール。雨がひどかったため、広報車は使っていない。

11:30 第2回災害対策本部会議

13:05 大雨特別警報（浸水害）

〈市長〉「これはやばい」と思ったし、前後して八幡地域の浸水した公営住宅の写真を見て危機感が高まった。

13:07 頗著な大雨に関する山形県気象情報（庄内、最上地方）

14:05 警戒レベル5【緊急安全確保】八幡地域。

〈市長〉大雨特別警報が発表され、荒瀬川で越水情報があったため

15:33 陸上自衛隊の派遣要請受理の連絡

16:45 第3回災害対策本部会議

19:05 警戒レベル5【緊急安全確保】西荒瀬地区。

〈市長〉日向川氾濫情報のため川からあふれているという情報が入り、急いで出した。

20:10 大雨警報に切り替え

21:40 警戒レベル4【避難指示】京田川の氾濫危険水位超過による注意喚起のため再発令（広野地区、広栄町、京田、錦町）

22:10 警戒レベル4【避難指示】最上川の水位上昇による注意喚起のため再発令（亀ヶ崎、港南、松原、十坂、宮野浦、新堀、中平田、南部、松嶺、内郷、南平田、砂越・砂越緑町）

22:47 頗著な大雨に関する山形県気象情報（村山、庄内、最上地方）

22:55 警戒レベル4【避難指示】相沢川の水位上昇と田沢川ダム放流による注意喚起のため再発令（相沢川、田沢川流域各地区）

23:40 大雨特別警報（浸水害）再び発表

## 7月26日（金）

2:10 警戒レベル5【緊急安全確保】亀ヶ崎、港南、松原、中平田、南部、松嶺、内郷、南平田、砂越・砂越緑町

2:58 警戒レベル5【緊急安全確保】錦町1～5丁目

5:00 第4回災害対策本部会議

5:50 大雨警報に切り替え

〈市長〉切り替えられても、八幡地域などがどうなっているのかまだ分からない。明るくなつてこれからどういった被害情報が入るのか、気が気でなかったし、安心したという感じは全くなかった。自衛隊が現地に入って安否の点呼を取り、在宅の被災者が約150人いるということが早い段階で分かった。

10:30 第5回災害対策本部会議

- 15:25 土砂災害警戒情報すべて解除  
16:00 第6回災害対策本部会議  
17:03 レベル5【緊急安全確保】レベル4【避難指示】すべて解除  
19:30 第7回災害対策本部会議  
21:32 大雨注意報、洪水注意報に切り替え

**7月27日（土）**

- 1:22 洪水注意報解除  
9:00 行方不明者（八幡地域）の対応開始  
20:16 大雨注意報解除  
〈市長〉この日に災害ボランティアセンターが立ち上がった。多くのボランティアを受け入れることができた。立ち上げは早い方がいい。

**7月28日（日）**

- 8:00 第8回災害対策本部会議

**7月29日（月）**

- 臨時市長記者会見、罹災証明書の受け付け開始  
〈市長〉事例集に「早く記者会見はした方がいい」と書いてあった。事務局の準備が整い次第ということで会見に臨んだ。

**8月25日（日）**

- 9:00 牽牲者慰靈や被災地復旧状況視察等

**9月3日（火）**

- 断水がすべて解消

**9月29日（日）**

- 18:00 すべての避難所閉鎖

**9月30日（月）**

- 16:00 第36回災害対策本部会議、この日で災対本部廃止

## 1 戸沢村長からのメッセージ

戸沢村長 加藤 文明

### ●ハードとソフトを対策の両輪に

戸沢村は過去に何度も水害を経験してきた。昭和19年7月の豪雨で最上川の水位が8.95mを観測し、古口地区のほとんどの住宅が浸水した。平成30年8月5日の豪雨では8.53mを観測し、蔵岡地区で床上浸水9戸、床下浸水75戸の被害を受けた。古口地区では昭和42年から古口特殊堤防、昭和46年に排水機場が建設され、蔵岡地区は平成29年に排水機場、令和4年までに輪中堤が整備された。7月25日からの豪雨で最上川の中流、下流域では線状降水帯が長時間滞在し、猛烈な雨になった。26日午前6時に観測史上最大の10.57mを記録し、従来の最大値を約2m更新した。

洪水対策が講じられていることと、積雪2mを越える雪国、豪雪地帯特有の基礎高住宅の絶対的信頼と安心感が「避難しなくても大丈夫」「安全だから」といった先入観を生んでしまった。危険が迫っている地域の住民に直接、電話をして避難を呼びかけても応じない人も中にはいた。蔵岡地区では高齢者を中心に18.9%の住民がヘリによって救助された。国土強靭化と合わせ、地区自主防災組織と連携して住民の意識向上を図り、能動的に避難行動を取るよう周知する必要がある。

### ●迅速な情報の入手と関係機関との連携の重要性を再認識

山形地方気象台から随時入る気象情報と的確な助言に沿って防災情報を発令した。国土交通省新庄河川事務所最上南部流域治水出張所からの最上川の水位予測情報を基に、避難先を検討した。過去に経験がない豪雨に襲われ、命を守るために判断と行動が一分一秒を争う中で、国の現地リエゾンによるタイムリーな情報提供が災害対策本部の判断にとても役立った。7月26日午前6時10分にヘリによる救助を要請、8時40分から県防災ヘリ、陸上自衛隊ヘリ、海上保安庁ヘリにより37人が救助された。情報と関係機関との連携の重要性を改めて認識した。

### ●雪国特有の住宅事情に対応をした判定区分が必要

被害の評価については、雪国に多い基礎高住宅ならではの課題が浮き彫りになった。基礎が高いことにより、罹災証明書上の判定は、最大でも大規模半壊になってしまう。甚大な被害を受けた蔵岡地区においても「全壊」となる建物は0件だった。「浸水深による判定」と「外力が作用し、建具や外壁が損傷した場合」との被害の評価に格差が生じている。全壊区分に至らない場合、被災者生活再建支援金をはじめ、各種制度の恩恵を受けにくく、生活再建に時間を要する。中山間地等、とりわけ雪国、豪雪地帯等の地理的、地形的な住宅事情に配慮した判定区分を設けるべきだ。

### ●国土強靭化に向けて地域の実情にあった対策を

近年の異常気象を受けて国土強靭化は新たな局面へ入っていると考える。河川の施設等に関しては、多発する水害に対し、安全率を高めるため、河道改修や洪水調節機能を保有する施設の整備や、老朽化した施設の長寿命化を図ることが求められる。上・中流域の貯留機能を重層的に高めつつ、中・下流域における流末対策も早期実施すべきだ。今までもこれからも「いのちを守る治水」は絶対に必要。日本のどこかで、限定的な地域や流域が

被災地にならないように、余裕高をはるかに越えて堤防を越水するような事態をどう捉え、どう対策していくのか、関係各機関の連携のもと、地域の実情にあった取り組みを着実に進めることが重要になる。

### ● ボランティアがマンパワーだけでなく、精神的にも支えに

7月26日にボランティアセンターを開設し、7月30日から10月31日までのボランティアは延べ人数約2,700人となった。猛暑や度重なる台風の影響もあり、活動を控える場面もあったが、一日最大261人、東北・関東甲信越・関西方面、中学生を含む多くの善意が結集した。各種作業のみならず、温かい言葉をかけてもらい勇気づけてもらった。全国のボランティアの皆様に感謝したい。

## 2 災害の概要

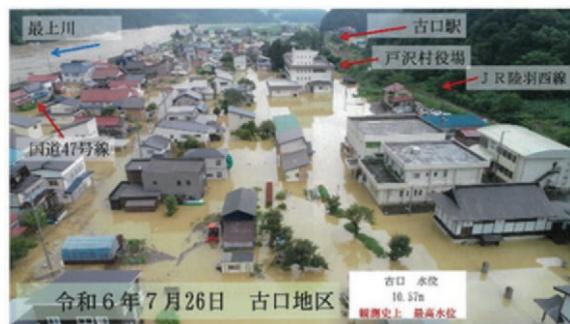
山形管区気象台によると梅雨前線が東北地方にのび、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、東北地方は大気の状態が非常に不安定となった。山形県では7月25日の昼過ぎと夜遅くに線状降水帯が発生するなど、24日から庄内や最上を中心に激しい雨や非常に激しい雨が断続的に続き、山形地方気象台は、25日13時05分に酒田市と遊佐町に対して、同日23時40分には酒田市、庄内町、新庄市、舟形町、鮭川村、戸沢村に対して大雨特別警報を発表した。

大雨により、最上川中流や鮭川、日向川で氾濫が発生するなど、河川の氾濫や浸水害、土砂災害が多数発生した。山形県の被害状況まとめ（8月1日11時00分現在）によると、新庄市で死者2名、酒田市で行方不明者1名の人的被害があったほか、庄内や最上を中心に床上・床下浸水などの住家被害が多数発生するなど大きな被害となった。

## 豪雨による雨量と水位（国土交通省 最上川 古口観測所）



蔵岡地区写真：戸沢村提供



古口地区写真：戸沢村提供

### 3 被害の状況

【人的被害】 死者 0 人

【住家被害】 226 棟

※大規模半壊 50 棟、中規模半壊 13 棟、半壊 54 棟、準半壊 2 棟、一部破損 107 棟

床上浸水 119 棟、床下浸水 107 棟

【浸水エリア】 400ha

※最上川外水氾濫 210.1ha 鮭川外水氾濫 47.3ha 計 約 260ha

※最上川内水氾濫 126.3ha 鮭川内水氾濫 15.9ha 計 約 140ha

【避難状況】 避難所の開設：指定避難所 3 か所（中央公民館、戸沢学園、南部振興センター）

自主避難所 4 か所（岩清水、神田、上松坂、古口地区公民館）

最大避難者数：549 人（7月 26 日 12 時）

【道路の被害】 国道：47 号が越水 1 か所と崩落 1 か所の被害

県道：3 路線、3 か所で被害

村道：13 路線、20 か所で被害

【河川の被害】 9 河川の 21 か所で決壊

【その他被害】 上水道：2 か所で断水し、7 月 29 日に復旧

電気：1,749 戸が停電し、7 月 30 日に復旧

※被害状況 戸沢村提供

### 4 災害の時系列

#### 7月 25 日（木）

9:23 洪水注意報

9:29 大雨・洪水注意報

11:30 災害対策本部設置

＜村長＞朝は強い雨は降っていなかった。次第に雨脚が強くなり午前中のうちに最上川の水位が 8m を超えるかもしれないという予測情報が入ってきた。平成 30 年の豪雨災害に匹敵する。当時も被害を受けた、最上川と鮭川の合流地点にある蔵岡地区が心配だった。役場庁舎内では感じなかったが、住民によると雨脚の音が尋常ではなかったようだ。

11:32 洪水警報

11:45 向松坂地区に警戒レベル 3 高齢者等避難 避難所設置

＜村長＞「『自分は大丈夫』と言って防災無線だけでは避難しようとしている人がいる」と地区会の役員から役場に連絡が入った。私が直接、住民の携帯電話を鳴らして避難するように説得した。

11:51 大雨警報（土砂災害、浸水害）

12:00 鮭川の水位 5.12m ※ 1 時間で 1.3m 上昇

12:30 北部地区に高齢者等避難

12:40 三ツ沢地区自主避難

13:00 岩清水地区で堤防越水の恐れ

13:07 顕著な大雨に関する山形県気象情報

13:20 北部地区に警戒レベル 4 避難指示

13:30 古口地区に防災無線による注意喚起

- 13:50 土砂災害警戒情報
- 14:44 古口地区で排水開始
- 14:25 中部地区で国道47号通行止め
- 15:50 中部、南部地区に避難指示
- 16:10 皿嶋地区冠水
- 21:38 中部地区に警戒レベル5 緊急安全確保
- 22:47 頗著な大雨に関する山形県気象情報  
＜村長＞夜、暗くなつてからの線状降水帯の情報だけに住民の安全確保と避難状況が気掛かりだった。
- 23:41 大雨特別警報（浸水害）

#### 7月26日（金）

- 5:50 大雨特別警報（浸水害）から大雨警報（土砂災害）へ
- 8:00 鮎川氾濫発生  
＜村長＞万が一、浸水被害を受けることがあっても内水氾濫を想像していた。  
越水と聞いてショックだった。
- 8:40 蔵岡地区 ヘリで住民救助  
向松坂地区 ヘリで住民救助
- 23:25 土砂災害警戒情報解除

#### 7月27日（土）

- 10:00 災害対策本部会議
- 13:30 災害対策本部会議
- 21:58 大雨警報から大雨注意報へ